

## 令和7年度 ひきこもりに関するアンケート調査結果（日田市）

### ■調査内容

調査票A(民生委員・児童委員調査)	
調査対象者	ひきこもり当事者 (おおむね15歳から70歳までの方で、次のいずれかに該当する方) ●何らかの生きづらさを抱え、生活上の困難を感じている状態にある ●家族を含む他者との交流が限定的(希薄)な状態にある ●支援を必要とする状態にある
調査基準日	令和7年9月1日
調査期間	令和7年9月～令和7年10月
調査方法	民生委員・児童委員に対し調査票を配付 郵送により回答(178地区)
回答数	175人
回収率	98%

調査票B(当事者家族調査)	
調査対象者	ひきこもり当事者の家族
調査基準日	令和7年9月1日
調査期間	令和7年9月～令和7年10月
調査方法	家族会・ひた生活支援相談センターを通じて調査票を配付 郵送により回答
回答数	25人

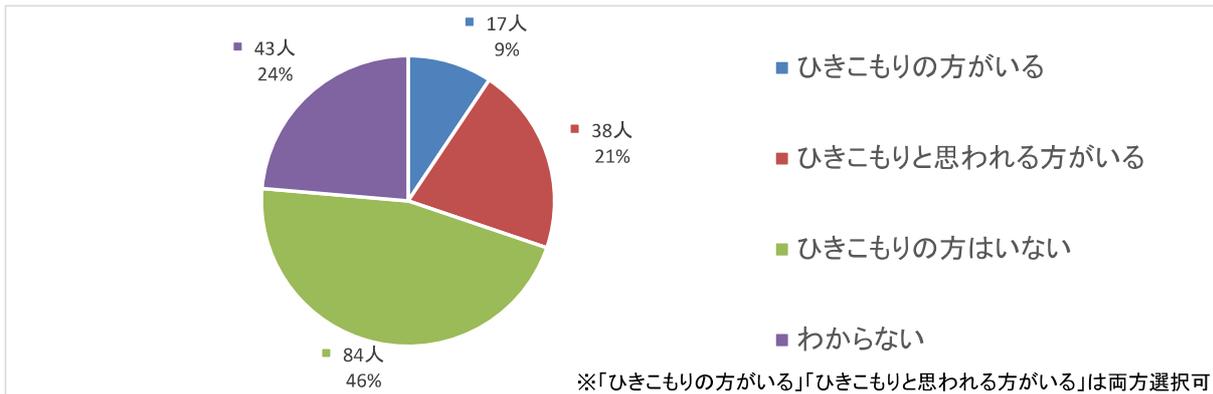


# 調査票 A

(民生委員・児童委員調査)

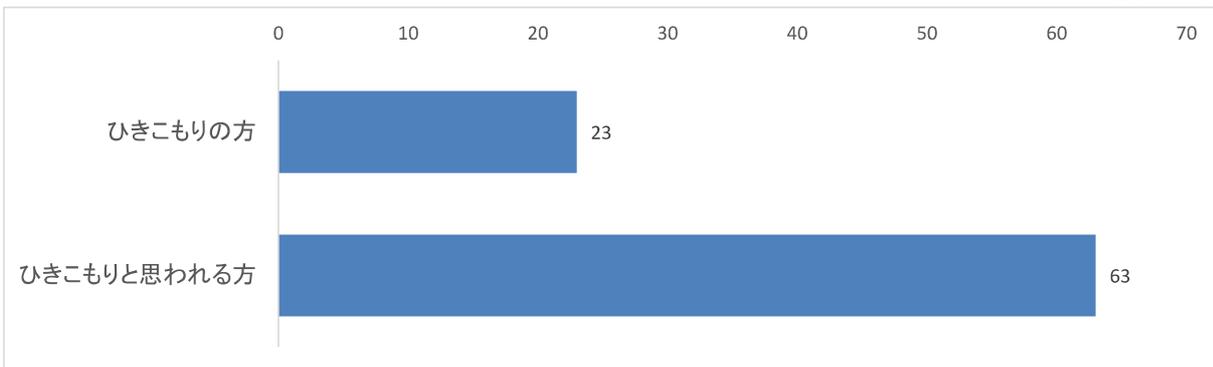


【問1】あなたが担当している地区に、「ひきこもりの方」または「ひきこもりと思われる方」は現在おられますか。あてはまるものを選択して下さい。



「ひきこもりの方がいる」と回答した人数は17人、「ひきこもりと思われる方がいる」と回答した人数は38人、「ひきこもりの方はいない」と回答した人数は84人であった。「わからない」と回答した人数は43人であり、民生委員・児童委員が把握していない当事者もいるものと推定される。

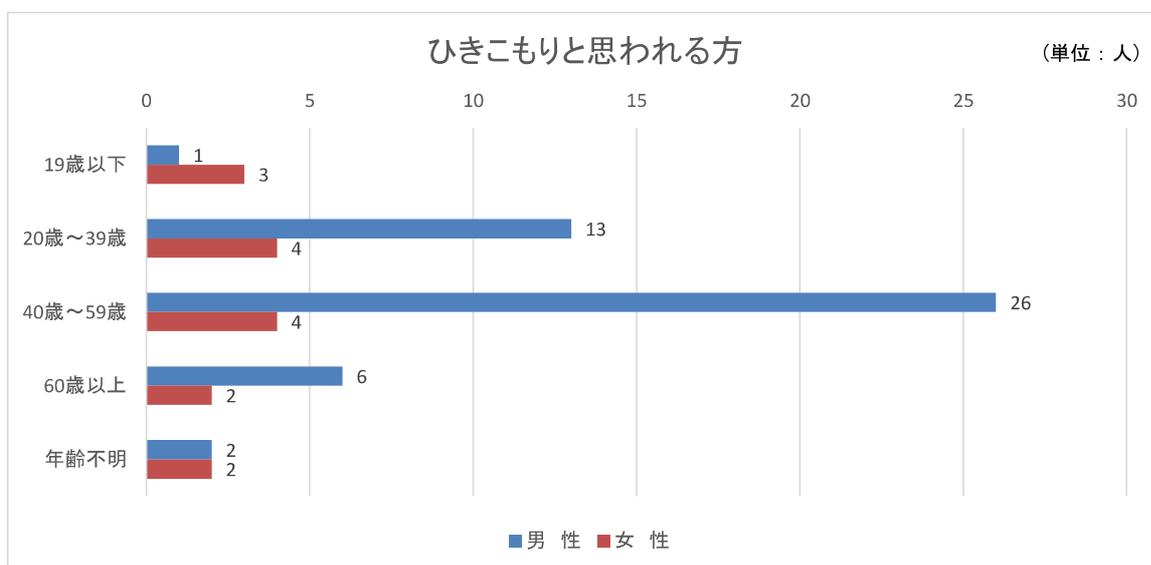
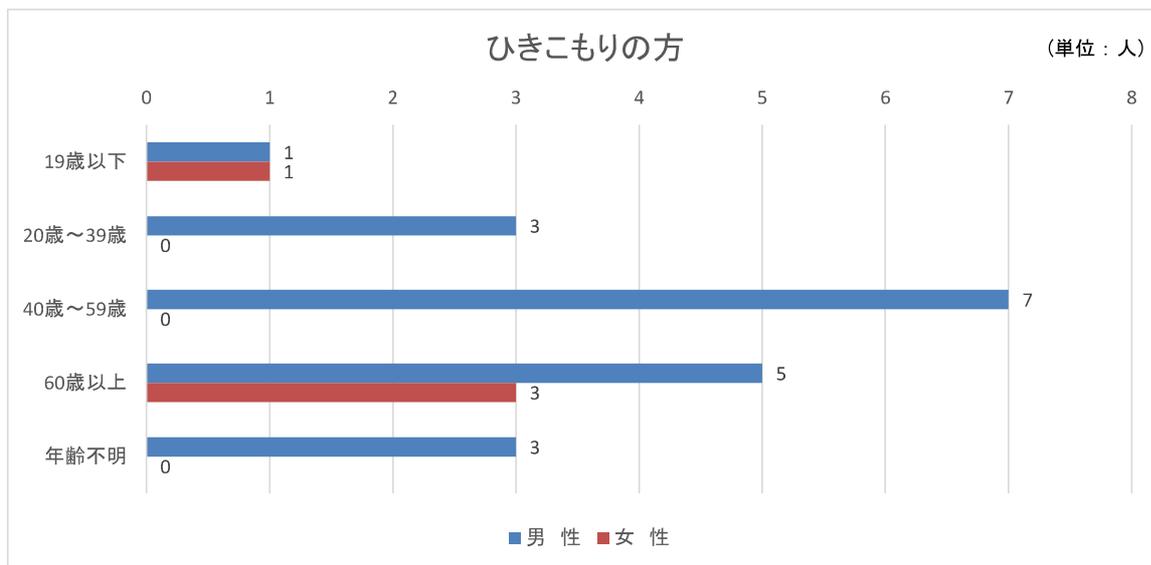
【問2】【問1】で「ひきこもりの方」または「ひきこもりと思われる方」を選択した方にお伺いします。それぞれ何人の状況を把握していますか。人数をご記入下さい。(単位：人)



「ひきこもりの方」の人数は23人、「ひきこもりと思われる方」の人数は63人であり、合計で86人であった。合計人数の日田市人口36,293人(15歳～70歳 令和7年8月31日現在)に対する割合は0.24%であった。但し、民生委員・児童委員が把握していない当事者人数が含まれていない点に留意が必要である。

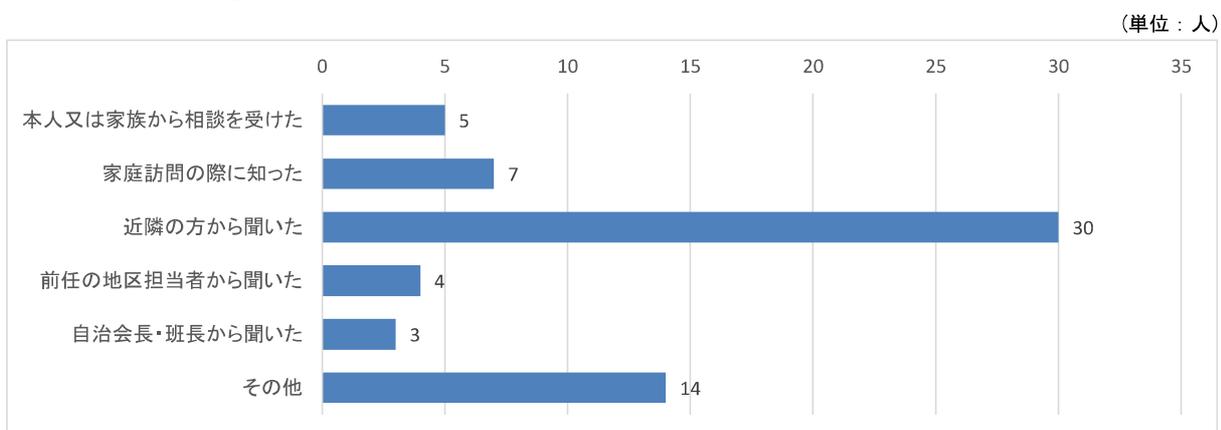
【問3】【問1】で「ひきこもりの方」または「ひきこもりと思われる方」を選択した方にお伺いします。その方の年齢・性別について、分かる範囲で人数をご記入下さい。(単位：人)

	ひきこもりの方		ひきこもりと思われる方		合 計
	男 性	女 性	男 性	女 性	
19歳以下	1	1	1	3	6
20歳～39歳	3	0	13	4	20
40歳～59歳	7	0	26	4	37
60歳以上	5	3	6	2	16
年齢不明	3	0	2	2	7
合 計	19	4	48	15	86



男性の人数が多く、「ひきこもりの方」では全体の約22%、「ひきこもりと思われる方」では全体の約56%を占める結果となった。  
 女性の人数については、「ひきこもりの方」では全体の約5%、「ひきこもりと思われる方」では全体の約17%を占める結果となった。

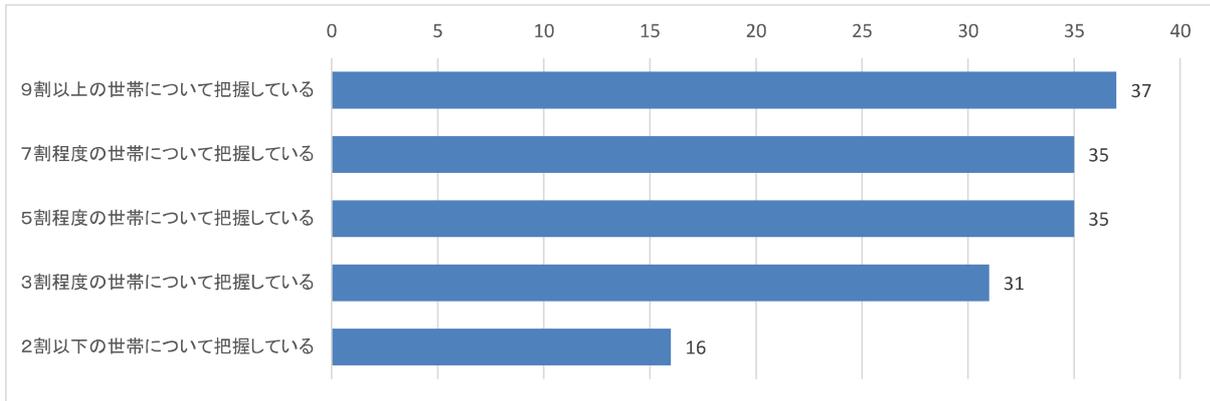
**【問4】** あなたが【問1】の状況にある方を把握することになったきっかけではまるものを選択して下さい。(複数選択可)



当事者を把握するきっかけとして「近隣の方から聞いた」が最も多い30人であり、有効回答数の約半数を占める割合となった。

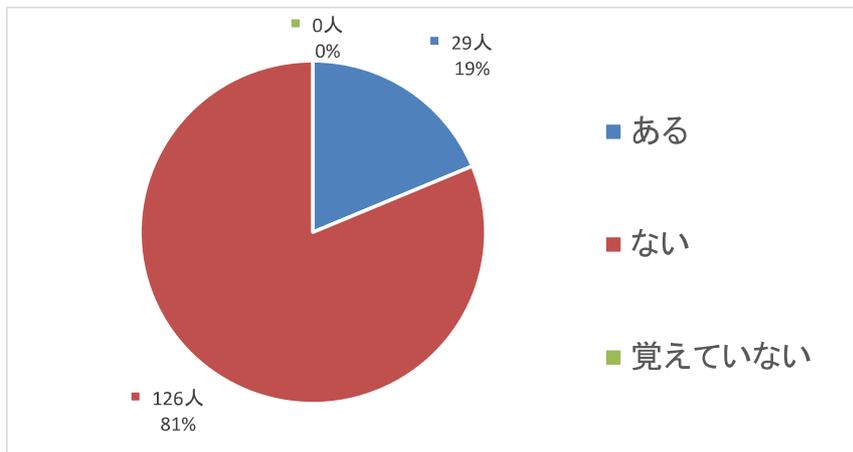
【問5】 あなたが担当している地区の状況（各世帯の構成・家庭状況等）についてどのくらい把握していますか。最もあてはまるものを選択して下さい。

(単位：人)



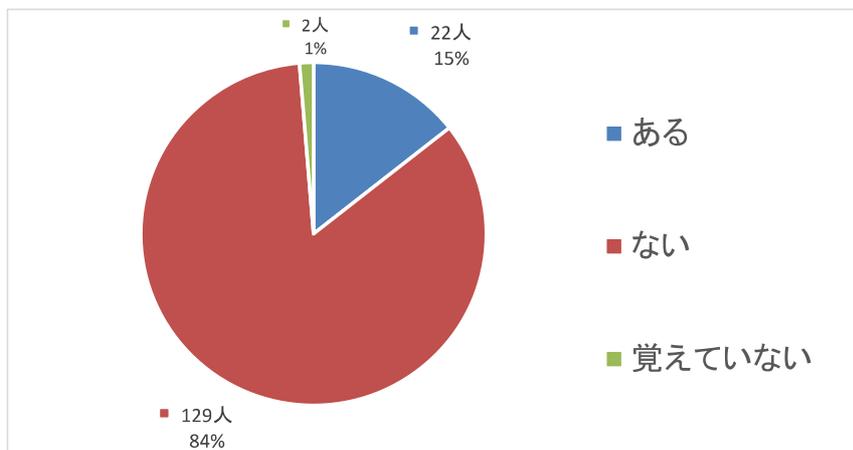
「9割以上の世帯について把握している」が最も多い37人であり、有効回答数のうち69%が地区の5割以上を把握しているという回答結果となった。

【問6】 あなたは、ひきこもりの方やそのご家族に関わった経験はありますか。あてはまるものを選択して下さい。



8割以上の民生委員・児童委員が当事者及びその家族と関わった経験がないと回答している。民生委員・児童委員の活動の範囲では、ひきこもり当事者・家族に接触する機会が少ないと考えられる。

【問7】 あなたは、地域住民から「ひきこもりかもしれない・生活に困りごとを抱えている」と相談を受けたことがありますか。あてはまるものを選択して下さい。

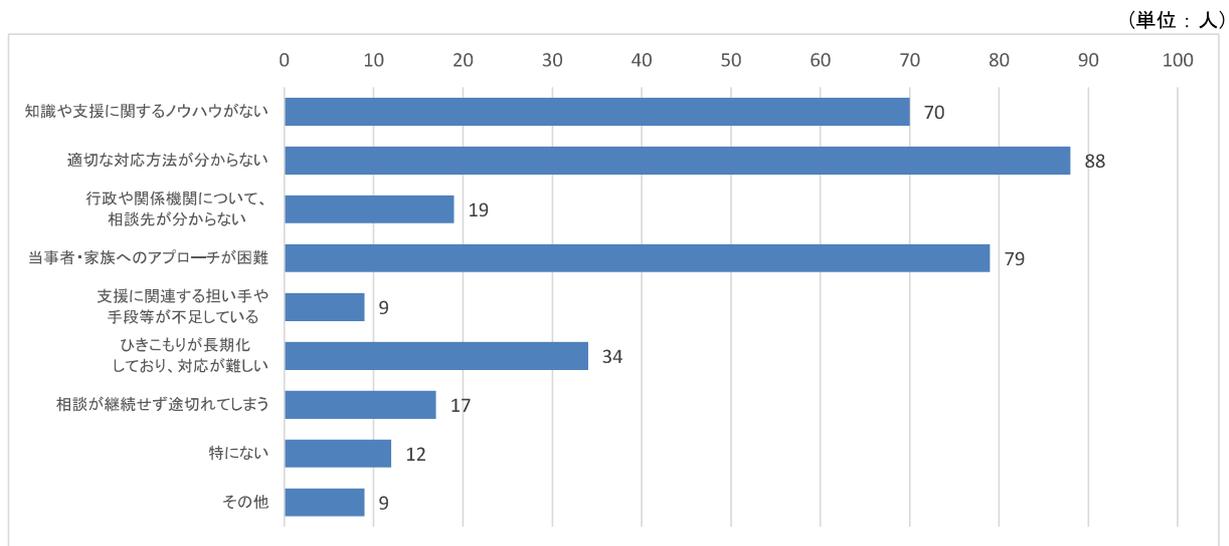


8割以上の民生委員・児童委員が相談を受けたことがないと回答している。民生委員・児童委員の活動の範囲では、ひきこもりに関する相談を受ける機会が少ないと考えられる。

【問8】 あなたは、「ひきこもり」と聞いてどのような人を思い浮かべますか。以下にご記入下さい。  
 (自由記載)

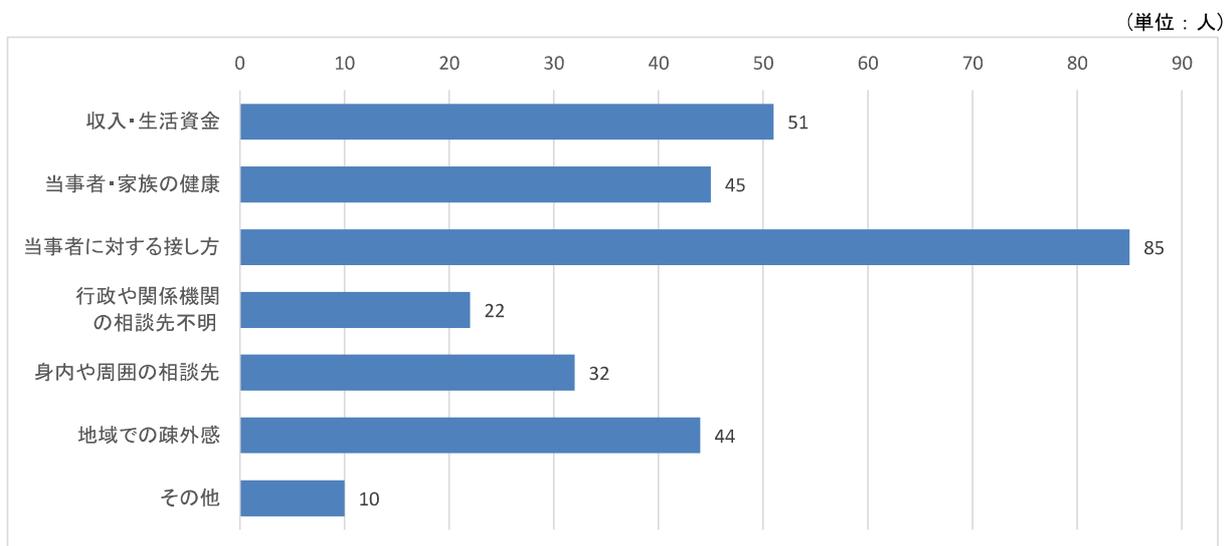
自由記載 (調査票A) 参照

【問9】 あなたがひきこもりに関連する相談対応等で悩んでいること、または相談を受けた場合に心配になることについて、あてはまるものを選択して下さい。(複数選択可)



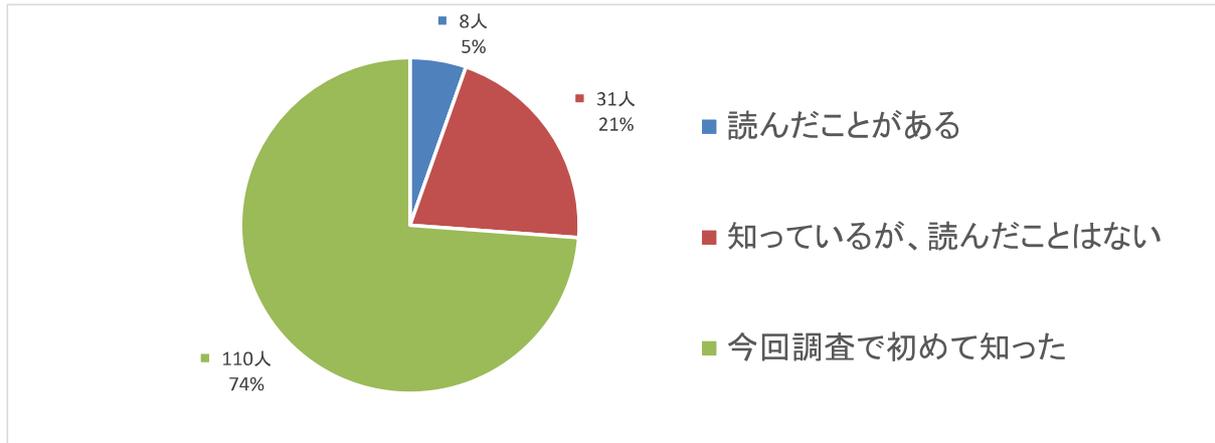
「適切な対応方法が分からない」が最も多く、次いで「当事者・家族へのアプローチが困難」「知識や支援に関するノウハウがない」が多い結果となった。  
 ひきこもりに関して地域が正しく理解できるよう啓発し、民生委員・児童委員が当事者・家族との関わり方を学習する機会が必要であると考えます。

【問10】 ひきこもり状態の方がおられるご家庭で困っていると思われるものを選択して下さい。(複数選択可)



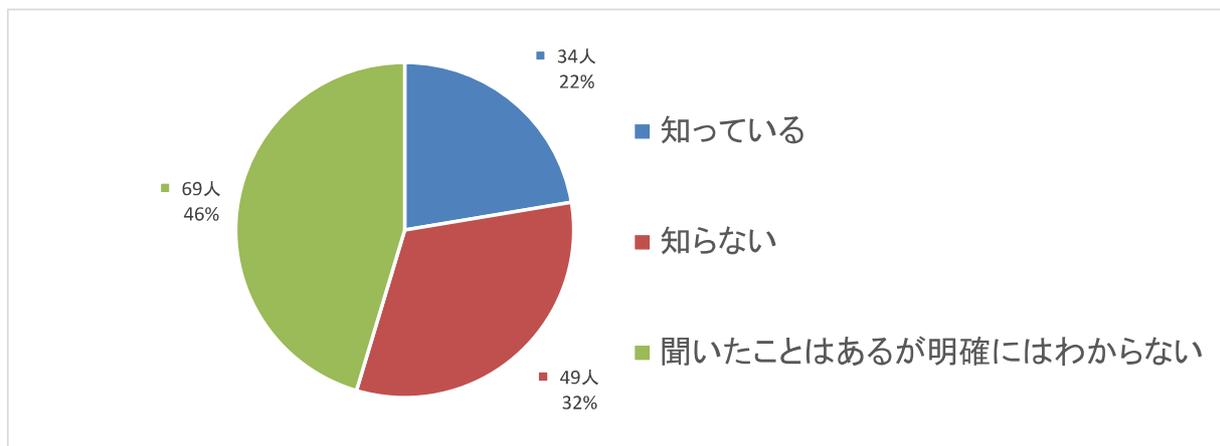
「当事者に対する接し方」が最も多く、次いで「収入・生活資金」「当事者・家族の健康」「地域での疎外感」で困っていると考えられる民生委員・児童委員が多い結果となった。

厚生労働省は、令和7年1月にひきこもり支援の新たな指針となる「ひきこもり支援ハンドブック～寄り添うための羅針盤～」を作成しました。本ハンドブックについて、あなたはどのくらい知っていますか。最もあてはまるものを選択して下さい。



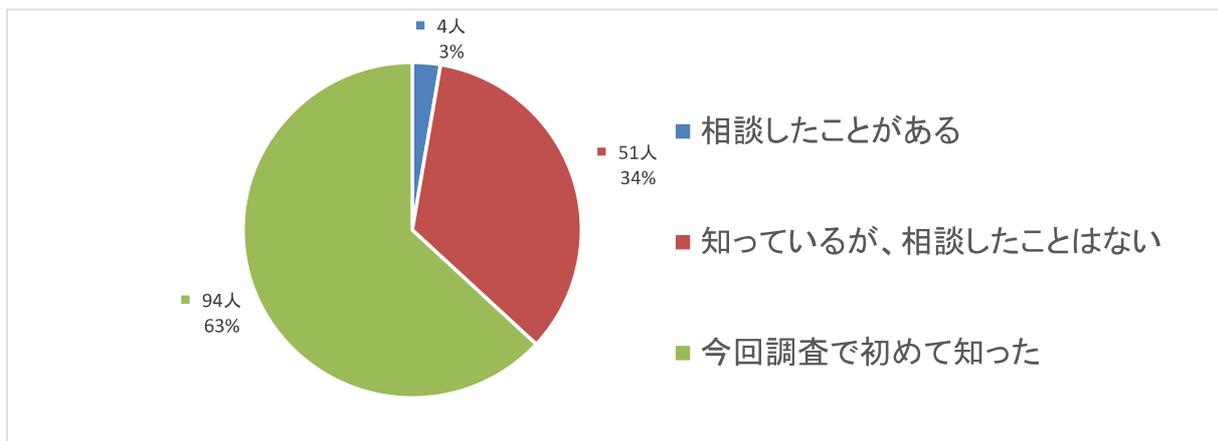
ひきこもり支援ハンドブックを読んだことがある民生委員・児童委員は有効回答の5%にとどまる結果となり、全体として95%がハンドブックの内容を知らないことが分かった。ハンドブックに記載されている考え方を地域に浸透させるための普及・啓発が必要である。

【問12】 あなたは、ひきこもりの支援機関があることを知っていますか。あてはまるものを選択して下さい。



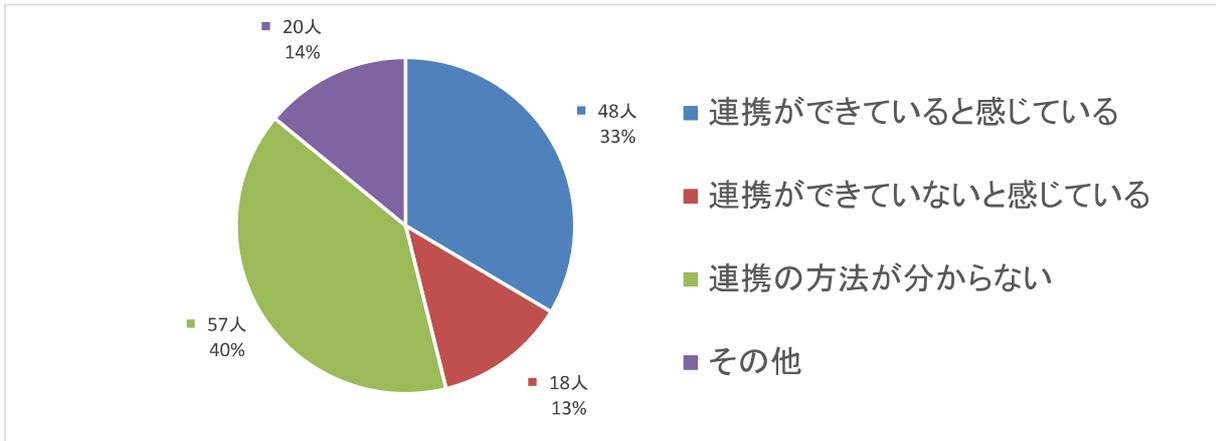
ひきこもりに関する対応が必要となった際の相談先を把握している民生委員・児童委員は全体の22%にとどまる結果となった。支援機関との繋がりを円滑にするためには、正しい情報の周知・PRを推進していく事が重要であると考えます。

【問13】 日田市では、現在、ひきこもり支援の一環として、市役所1階のひた生活支援相談センター内にひきこもり相談窓口を設置しています。このことをあなたは知っていますか。また、これまでに相談したことがありますか。最もあてはまるものを選択して下さい。



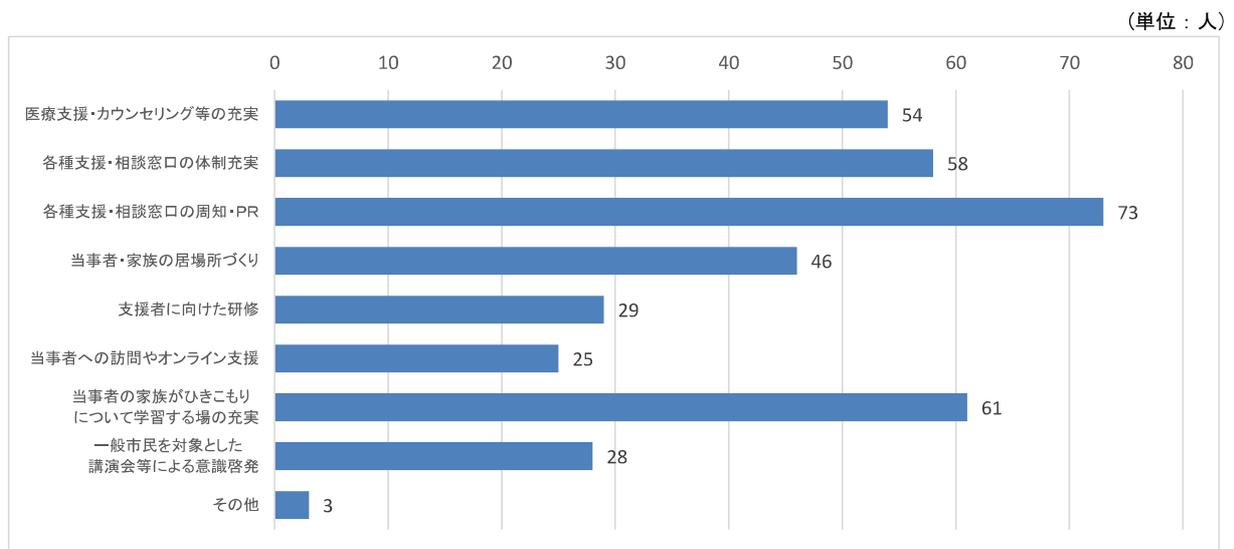
63%の民生委員・児童委員が相談窓口の存在を知らないという結果となった。また「知っているが、相談したことがない」の回答の理由としては、【問6】【問7】の結果分析から、民生委員・児童委員がひきこもり当事者・家族に接する機会が少ない点が背景にある可能性が考えられる。

【問14】 あなたは、民生委員・児童委員とひきこもりの支援機関（社協など）の連携についてどのように感じていますか。最もあてはまるものを選択して下さい。



有効回答のうち33%が「連携ができていると感じている」と回答した一方で「連携の方法が分からない」が40%という結果となった。背景として、ひきこもり支援に対する知識・理解の不足や、連携すべき支援機関を知らないという点が考えられる。

【問15】 あなたが民生委員・児童委員として地域に関わる中で必要だと感じるひきこもり支援策を選択して下さい。（複数選択可）



「各種支援・相談窓口の周知・PR」が73人と最も多く必要と回答されており、次いで「当事者の家族がひきこもりについて学習する場の充実」が61人であり、家族支援が必要視されていることが分かった。また「各種支援・相談窓口の体制充実」が58人、「医療支援・カウンセリング等の充実」が54人と、支援機関の相談対応機能の充実が求められている。

【問16】 ひきこもり状態にある方、またはその家族についてあなたが感じていることや、地域の課題等ございましたら、ご記入下さい。（自由記載）

自由記載（調査票A）参照

自由記載（調査票A）

【問4】あなたが【問1】の状況にある方を把握することになったきっかけであてはまるものを選択して下さい。（複数選択可）

その他

● 家にいて仕事に行っていない。
● 家が近くなので、ひきこもっているのがわかった。
● 家族が居るのに全員を見かけない。 1人だけ見ないのでひきこもりではと思っています。
● 外に出ているのを見たことがない。
● 近隣のため以前から認知していた。
● 以前の主任児童委員、地域の方から聞いた。

【問6】あなたは、ひきこもりの方やそのご家族に関わった経験はありますか。あてはまるものを選択して下さい。

「1. ある」を選択した方は、関わった時の状況や印象を以下にご記入下さい。（自由記載）

● 家にいるのが10年以上になるので慣れているのか人には話さない。 心配はしていると思いますが…。
● 60代男性一人暮らしで家がゴミ屋敷になって、近所の方とも交流がなく生活にも困っていた。 包括の方に相談して今は、市の支援を受けている様です。
● 家族は問題として大きくとらえてない印象。
● 回覧板などで相談に関することなどパンフレットでアプローチしているが、両親とも関心があるのかわかりません。
● 保健師さんより、健康診査の受診がない事から、本人と面会はできず、母親と面会し状況を聞いた。 母親自身も何回か保健所等にも相談した事がある。
● 本人は高学歴もあり、自分の考えを持っていて、他の人からの助言等は受入れがたい。 人と接する事を嫌っていたが、最近は母親が病気になる、私が声をかけると受け答えはきちんとしてくれるようになった。しかし近所の方との会話はむずかしい。 ※ひきこもりとを感じる方の親は、いずれも高齢者家庭で親なきあとの生活が気になる。
● 父親は早く亡くなり、母と二人暮らしで本人は仕事をしていなくて、母親の年金で生活しておりました。 昨年母が亡くなり、しばらくして班の人から民生委員どうにかありませんかと相談がありましたので、お話を聞くと玄関に入る手前の両端に新しいカマが2本立ててある。何をしているか心配ですと聞き、私もどうして良いかわかりませんでしたので私は包括支援センターに連絡をしてみました。 すると、市役所を紹介して頂きTELをしてお話をしてみました。 今は仕事に行っているという聞いています。
● 私が用事で家に行った時には返事等の受け答えはしてくれる。 両親と病院等にも行っているようで、そこで出来るような手伝いをすると聞いたことがある。
● ずいぶん前に仕事を辞めてほとんど自宅の2階にとじ込められている状態でした。母親が認知症になり入所しましたが、その間の対応に少しづつかわってもらえるようになり入所しました。
● それをきっかけに包括を通して市の生活支援の方にかわっていただき、紹介してもらった職場に通うことになりました。近所の人にも自ら挨拶をするようになったと聞き、ほっとしているところです。 今、70才後半の父親と2人暮らしなので、引き続き見守っていきたいと思っています。
● 精神的疾患を発症して受診等を拒否していたが、その後受診、服薬、治療、快復に繋がった。
● 母親から何かあったら、私に相談する様に伝えていっていると、本人は車の運転もするし、買い物にも行かれています。

【問7】あなたは、地域住民から「ひきこもりかもしれない・生活に困りごとを抱えている」と相談を受けたことがありますか。あてはまるものを選択して下さい。

「1. ある」を選択した方は、その際の対応と感じたことを以下にご記入下さい。（自由記載）

● 市役所、社協に相談したがすでに様々な支援を受けられていた。 すべての要求に対応することはむづかしいと感じた。
● 母親と息子の2人で暮らしているが、地域の人と関わらず町内会や作業にも出て来ない。 母親は体が不自由で動けないので困っているのではないかと地域の方に聞いた。 包括支援センターの方やケアマネージャーと連絡を取り、見守ることになった。
● 本人と直接会って話を聞いたが前進なし。（本人の意志が感じられない）
● 近所の方から顔を見ないけどどうしているかなという話を聞いたことがあるが、時々弁当を買いに行っていることや妹さんが来ていることもあると話を聞いた。
● その方を知らないし見たことがないのでどのように訪問していいかわからない。 その方がひきこもりなのかも確かな情報ではないので、どのような行動・声かけをしていいかわからない。
● 相談とまではいかないが、仕事につかない→収入がない。保険証がなく病院にもいけないとの話を聞いたが、どうしていいかわからずそのままになっている。 対応：ひた生活支援相談センター、保健所保健師、市役所保健師に相談。訪問して母親の話を聞いた。本人とも会えたらと訪問した。
● その後、関係機関の担当者の方が対応して下さっていたが、大きく動かない状態がつづいていた。そんな折、西部包括支援センターに精神科病院勤務経験のある看護師さんが赴任されたときき相談。 看護師さんの熱心な働きかけと、ひた生活支援相談センターの担当者の方のきめ細かな支援で現在就労している。

●	家族の思いを聞く。本人にメールをおくる。 家族は我が子に思いが届かず、いらだち、あきらめている様子であった。 家族には相談窓口があることを伝えた。
●	高齢者の男性の二人暮らし。男性が病気で倒れ、生活に困っていると相談。市の生活支援に相談した。
●	どのような事に困っているか、悩んでいるか話を聞いた。 他の民生委員や包括支援センターの人に相談をして、他の機関等につながる場所をさがした。
●	父子家庭で父親が就労がうまくいかず、子供3人いましたが、貧しいため食事もままならない状態でした。地区の方に協力声かけ行い、米や野菜などを援助して頂きながら、生活保護の手続きを進め、受けることができました。

【問8】 あなたは、「ひきこもり」と聞いてどのような人を思い浮かべますか。以下にご記入下さい。  
(自由記載)

●	本人が特にその状態を望んでいないにもかかわらず、外部環境(人・機関・場所等)との接触がなく、孤立状態にある方。
●	学校や仕事等に行くことができず長期間自宅から出られずにいる状態。
●	社会のつながりがなく孤立している方。 自分の悩みを相談する人が居ないか、心の中を人に話せない。
●	心に傷がある人。 対人関係がうまくいかない人。 過去にいじめられた人。
●	学校について自分にあわなく又仕事の関係で上司の方が自分に合わなく仕事に行ったり休みがちになる。 家族や周囲の人たちと関わることを拒んだり、上手に関われないために、自分の殻に閉じこもりがちになり、仕事も続かない。
●	こもることが楽だと思一方、どうして良いかわからず悩んでいて出口が見つけられずにいる人が多いのではないかと思います。
●	社会的に孤立し、社会的参加を回避し、家庭にとどまっている。
●	自宅に閉じこもり外の世界を拒絶している人。 子供・大人・老人すべての人が成りうる(学校・仕事に行かず交流がない)。
●	なんらかの要因で、生きづらさを感じているひと。 要因が軽減、又は除かれれば社会復帰できる人も多いのではないかと思います。

【問9】 あなたがひきこもりに関連する相談対応等で悩んでいること、または相談を受けた場合に心配になることについて、あてはまるものを選択して下さい。(複数選択可)

その他

●	親が相談してこない。あきらめている様子がありそうに思える。
●	すぐに解決できるものではないと思うので定期的にかかわっていけるかどうか…。
●	支援センターや相談員が関わるとしても個人に長くつきあえる事でもなく、本人の心の動きに時間がかかり、長期化して途中であきらめるのではないのかと思う。
●	社会福祉協議会の方にも相談致して情報は入れておりますが、本人からは何も連絡ないと事です。
●	相談を受けてみないとわからない。

【問10】 ひきこもり状態の方がおられるご家庭で困っていると思われるものを選択して下さい。(複数選択可)

その他

●	一人暮らしだが年齢的に、高齢者訪問の対象になっていないので情報が得られない。
●	本人への叱責、暴力や物をこわすなどの対応。又は逆の事もあるのではないかと。
●	高齢の1人親が、自分が亡くなった後の子供(当事者)の生活不安。
●	ひとり暮らしであり、家事全般かど。(ここは妹が通ってめんどうをみている。)
●	先が見えないことへの不安。
●	将来その人がひとりになったらどうすればいいか。
●	家族がひきこもりということを理解せず、それでいいと思っていること。

【問12】 あなたは、ひきこもりの支援機関があることを知っていますか。あてはまるものを選択して下さい。

「1. 知っている」を選択した方は、その機関名を以下にご記入下さい。(自由記載)

●	地域包括支援センター
●	日田市社会福祉協議会
●	地域自立支援センター
●	ひた生活支援相談センター
●	相談支援事業所ポノ
●	市役所の福祉課・児童家庭課
●	おおいた子ども・若者総合相談センター
●	おおいたひきこもり地域支援センター
●	KHJ日田ゆきどけの会(家族会)
●	保健所、教育委員会、市役所(生活支援センター)
●	相談支援事業所はぎの

【問14】あなたは、民生委員・児童委員とひきこもりの支援機関（社協など）の連携についてどのように感じていますか。最もあてはまるものを選択して下さい。

連携ができていないと感じている（理由を具体的に）

<input type="checkbox"/>	民生委員は独居老人、認知症のサポートで、それどころではない。
<input type="checkbox"/>	民生委員となってひきこもりの研修等参加しなかった。
<input type="checkbox"/>	ひきこもっている家族から相談がないとこちらから言えない。
<input type="checkbox"/>	情報共有ができてない。

その他

<input type="checkbox"/>	ひきこもりの家族から困っているとの相談がないので支援につながらない。
<input type="checkbox"/>	ひきこもりの方の情報を受けた事がないのでわかりません。
<input type="checkbox"/>	毎月会議にて話し合っているがひきこもりの話題はなかった。
<input type="checkbox"/>	ひきこもりと把握はしているが、家族が隠している状況のため直接のアプローチはできない。
<input type="checkbox"/>	相談したことがなくわからないが、問題がおきた時は、連携していけると思う。
<input type="checkbox"/>	包括支援センターとの連絡で支援へと連携につながる。
<input type="checkbox"/>	社協の方からの説明などあるが自分がひきこもりの方を把握していないのでわからない。
<input type="checkbox"/>	いざその様な時は支援機関と連携できると思う。
<input type="checkbox"/>	連携するにはハードルが高い。
<input type="checkbox"/>	また支援機関の種類が多く、どの困りごとをどこに相談すればいいのかよく把握できていない。

【問15】あなたが民生委員・児童委員として地域に関わる中で必要だと感じるひきこもり支援策を選択して下さい。（複数選択可）

その他

<input type="checkbox"/>	特に家族の支援。
--------------------------	----------

【問15】上記の支援策が必要だと思われた理由をご記入下さい。

<input type="checkbox"/>	訪問での声掛けが必要だと感じました。
<input type="checkbox"/>	まず、ひきこもりの方が本当におられるのか調べないといけないと思います。
<input type="checkbox"/>	3. 当事者やご家族の問題解決の糸口にしてほしいため。
<input type="checkbox"/>	8. 周りの理解を促し、地域での孤立感の解消につなげてほしいため。
<input type="checkbox"/>	家族が相談したい気持ちになる様、市報などでPRする。
<input type="checkbox"/>	家族が考えてあげるのが最優先だと思う。
<input type="checkbox"/>	7. について、家族がどうしていいかわからないと思うので自分だけと孤立せず同じ思いの人の話を聞く。
<input type="checkbox"/>	まずは各種の支援窓口があるという事を知っておかないと始まらないので色々な形でPRしてほしい。
<input type="checkbox"/>	医療支援は必要だと思うが家族がいれば訪問を受け入れてもらえる事だと思います。（一人暮らしはむずかしい）
<input type="checkbox"/>	当事者その家族を含む一般市民全体の場での学習会。
<input type="checkbox"/>	とてもデリケートな問題なので、当事者の方が相談しやすい場があることが望ましい。
<input type="checkbox"/>	家族の方も当事者も日々の生活に疲れていて、解決方法すら（相談したり、その事を家庭内でどうする事もなく）まよわれていると思うから。
<input type="checkbox"/>	本人、家族の不安事を早く解決されることを希望するからです。
<input type="checkbox"/>	本人や家族に、ひきこもり状態にあることをあまり外部に知られたくないという思いがありそうだと感じるから。
<input type="checkbox"/>	民生委員・児童委員になって初めて包括支援センターを知り、地域の高齢者について困り事ができたら、すぐに相談し助けてもらっている。ひきこもりについても、同様に支援・相談窓口を整備してみんなに周知してほしい。
<input type="checkbox"/>	ひきこもり者のいる家族はそれを知られたくないのではないのでしょうか。言いたくない。
<input type="checkbox"/>	本人、家族の方が心配だから。
<input type="checkbox"/>	まずは一步をふみ出せる居場所が必要だと思います。
<input type="checkbox"/>	その上で支援につなげるための体制や専門機関があればと思うので。
<input type="checkbox"/>	地域の中で当事者の把握ができていないし、なかなかできない問題である。
<input type="checkbox"/>	当事者や家族から相談を受けることもないので、家族の方に学習していただき支援や相談窓口があるということを知っていただきたい。
<input type="checkbox"/>	家族が当事者への理解がないと色々な問題が出そう。
<input type="checkbox"/>	当事者がいる世帯では秘密にしているので相談窓口がある事を知らせたらと思います。
<input type="checkbox"/>	相談先が知られていないと思うし、難しい問題であり、相談員も専門的知識と対応の仕方にたけた人が必要かと。
<input type="checkbox"/>	支援、相談窓口の充実が家族の方にとって、特に支えとなると思う。
<input type="checkbox"/>	親も子も話せる場所、相談できる所があるのはいいことと思う。
<input type="checkbox"/>	相談する窓口があると家族にとっては、良いことだと思う（安心する）。
<input type="checkbox"/>	家族が「ひきこもり」を理解しないと当事者も家族も苦しむと思う。
<input type="checkbox"/>	また、地域も無理解であれば、なおさら地域とのつながりが切れてしまうと思う。
<input type="checkbox"/>	訪問やオンライン支援してくれれば行政が気にかけてくれていると安心感が出来ると思う。
<input type="checkbox"/>	支援機関と民生委員とのつながりが大切だと思うので。
<input type="checkbox"/>	まずは相談窓口の周知が必要と考えます。
<input type="checkbox"/>	そうすれば当事者や家族もきっかけが持てるのではないかと思います。
<input type="checkbox"/>	ひきこもりの人にどう対応していいのかわからないと思う。
<input type="checkbox"/>	ひきこもりの人は、私達役員の方に心を開いて話してくれるか？が心配。
<input type="checkbox"/>	当事者にかかる言葉の1つで、良くもなり悪くもなる。と思うと難しいと思う。
<input type="checkbox"/>	家族だけでかかえこまないで周囲の方の理解を深めて苦しまないように支援してあげたらと思う。

●	元気や自信がなくなっている状態だと思います。 内心は葛藤を抱えていると思うので、カウンセリング、相談窓口の体制充実だと思います。
●	家族の方が質の高い専門カウンセリングによる相談対応が受けられるような機会（窓口）があると良いと思う。
●	まず当事者の家族が知識を持つ事が必要と思う。
●	以前の主任児童委員から当事者の家族の方に声をかけたが「困っていることはない」との事で、かかわる事が出来なかったと話を聞いた事がある。「本当に困っていないのか、現状維持で良いと思っているのか、知られたくないのか」など家族や当事者とのかかわり方がむずかしいと感じた。
●	話は外部から聞く事があるが、これは家庭の事情により人には話したくない。もっと市からPRしてほしい！！

【問16】 ひきこもり状態にある方、またはその家族についてあなたが感じていることや、地域の課題等ございましたら、ご記入下さい。（自由記載）

●	家の方へ部外の方が訪問すると嫌になるので、やはり、ひきこもりの方は親か姉妹か兄弟がいるなら、そこから少しずつ、訪問し、現在の話題の話しをし、短時間でその場を離れ、又何日か過ぎて訪問するのを繰り返すと少しずつ心を許し、外出する様になるのではないのでしょうか。 気長に付き合っていくことだと思います。
●	ひきこもり状態の方をどのような形で把握するのかについては、今後の課題としてとらえています。
●	ひきこもりの方の家族が声をあげられる様になるといい。
●	ひきこもりが長くなりあきらめ「いらん世話」と言われそうでできりだせない。
●	家族の負担の重さを心配する。
●	当該家族の方は周囲の方に知られたくないと感じている。住民の意識啓発の必要性を感じている。
●	本の中でしか知識がないのですが、本人さんも苦しいでしょうが、まず家族のフォローが大切ではないでしょうか。
●	ひきこもりの方がいても、本人・家族から話しを受けないこちらからはなかなか話しを出しにくい。
●	地域から孤立しないようにする。
●	ひきこもり状態の家族・本人に信頼を得ることはむずかしい。
●	民生委員として、日頃の活動は独居老人が中心のため「ひきこもり」状態にある方を知る術を持っていない。
●	「ひきこもり問題」は決して他人事ではない気がします。
●	もしひきこもりの方がいることを知ったら早目に家族・本人に関わらせてほしいです。まず話を聴きたいと思います。
●	家族の方が子どもについて聞いても隠しているのかあまり話さない。
●	ひきこもり状態らしいと近隣の方からの情報があっても、当事者と会うこともできず、状況の把握ができない（1人暮らし）。
●	近隣の方からは夜になれば灯りがつくので、元気らしいということだけ。姿をみかけることもないらしい。どこまで立ち入って良いものか。立ち入るべきなのか疑問である。 現在は、近隣の情報を頼りに外から見守っている状態です。
●	ひきこもり状態というのが、外にはわかりづらいと思う。家族の中で何とかしたいと思いがちだから。今後支援とつながっていったらと思います。
●	家族に不登校やひきこもっている人がいることを外部に知られたくないと思う場合もあり、こちらから聞き出すこともためらわれるので相談があればそれに対処していくしかないのかな？と思います。
●	社会に出ず20年以上もひきこもっている方とのかかわり方は難しく、どう対応してよいかわかりません。相談員さんも入っていたようですが、あまり策もないようでしたが。家族との接し方も難しいですね。
●	本人が社会復帰や自立の為にはサポートが必要と思います。
●	専門的なアプローチがほしい必要。 家族の方にも安心する場がほしいと思います。
●	当事者によって対応はさまざまだと思うので、当事者の状態と置かれている状況を知る事が必要。
●	「ひきこもり」と他のトラブルとが複雑にからんでいることが多い。地域でどう関わればいいのか。 当事者がどんな関わりをのぞんでいるか人さまざまで一律に判断できない。 「居場所」もその人がどんな場所で安心できるかひとりひとりちがうと思うので難しいと思います。 でも必要な場所だと思います。これからの大きな課題だと思います。
●	どことも同じだと思うが、近隣の付き合いが希薄になっているので情報（うわさ話）が入りづらい。 人の集う場作りが必要ではないかと思っています。
●	周囲が「ひきこもり状態」と考えていても本人は自分らしく生活していると感じ、困りを感じていないこともある。家族は将来を考え、不安やあせりを感じているようであるので、まずは家族の気持ちを受けとめることからではないかと考えている。 はたらきかけのタイミングや相談のタイミングがむずかしく、月日が流れていってしまう。
●	私の知り合いにひきこもりの子供がいる方がいました。お母さんが病気で世界されお父さんは病気で施設に入所され本人は自宅で生活されている様子です。 この様な状態になる前に家族の方がひきこもりについて学習する事が出来れば子供さんも又違った人生があったのではないかとずっと思っていました。
●	市民全体も意識を持つため講演会等の開催を続けていくことが必要と思います。
●	理解が広がっていくことで地域での支え合いも生まれ、当事者や家族につながっていけると思います。
●	ひきこもり当事者の状況はいろんなケースがありそうです。相談先の周知徹底を計り、本人や家族の不安を取り除くことが先決だと思います。他人に知られたくない。人と接したくないと拒否する方をいかにかわっていくかの研修などをお願い致します。
●	家族の方にとっても、地域内の人にはない方が気がねなく相談しやすい点があると思う。
●	専門の質の高い相談者に近道で相談できる方がありがたいと思う。その後のフォローの経過でかかわれることがあればそうしたい。
●	ひきこもりは、家族から発信しなければ、私達に分かりにくい。
●	お一人暮らしの高齢者等には訪問しているが、隣人もわかりにくいと思う。
●	本人が回りの方との関係を作ろうとしないので会う事も出来ずに、どうしたら良いか困っている。

●	ひきこもりと思われる方を訪問しても、顔を見せていただけないのでどの様に対応して良いか分からない。
●	地域的に高齢者との関わりが中心となっており、不登校の児童、生徒がいるという話は聞くが、原因や対応など地域課題として深く考えたことがないと思う。今回良いきっかけとなった。 学校現場や職場など働き方改革による社会の変化、子ども達を取りまく環境の変化など、生きづらさや通いづらさを感じている事に少しでも寄り添える地域に出来ればと思う。

※自由記載は、集約した調査票より一部抜粋したもの。

※誤字・脱字の訂正および重複項目の統合等を除き、原文のまま掲載。

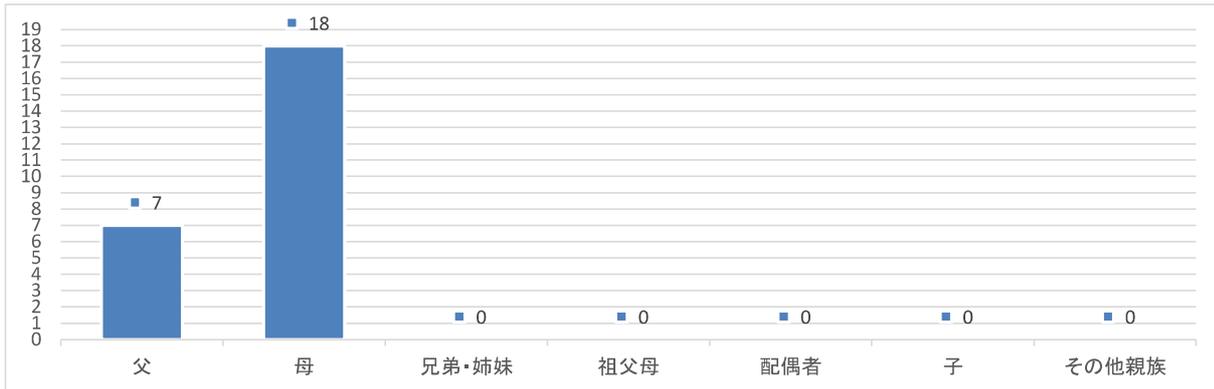


**調査票 B**  
**(当事者家族調査)**



【問1】 ご本人からみたあなたの立場を選択して下さい。

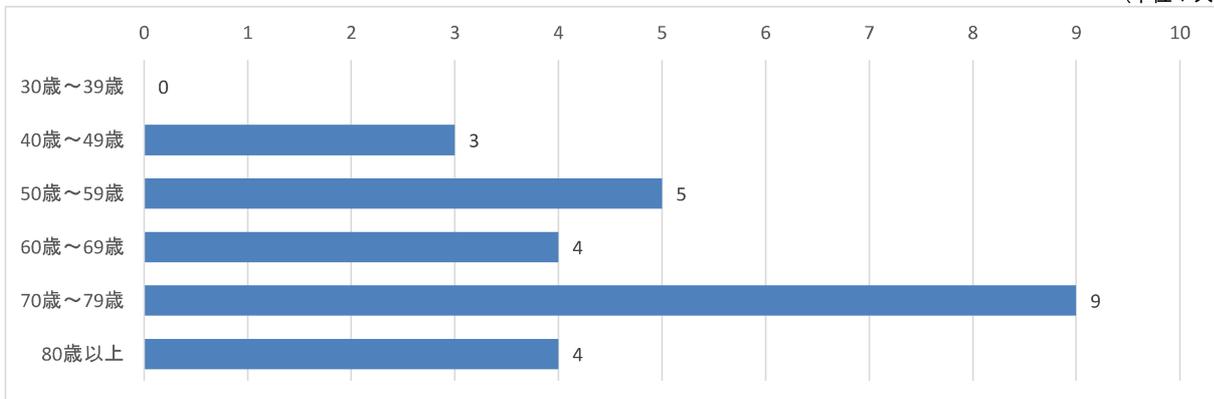
(単位：人)



当事者の「母」による回答が最も多く、回答の全てが当事者両親によるものとなった。

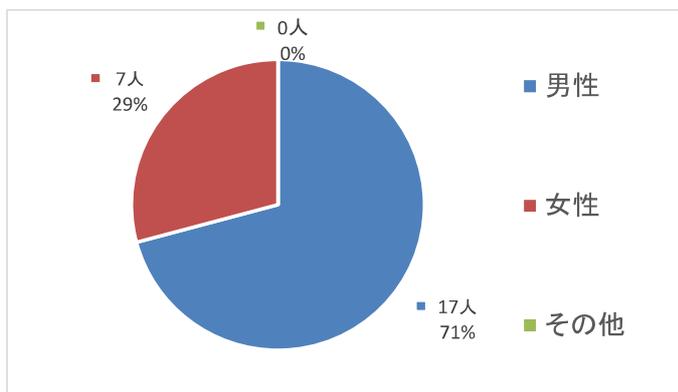
【問2】 令和7年9月1日現在のあなたの年齢を選択して下さい。

(単位：人)



「70歳～79歳」の回答が9人と最も多く、60歳以上の家族が有効回答全体の68%にのぼり、当事者家族の高年齢化が進んでいる状況にある。

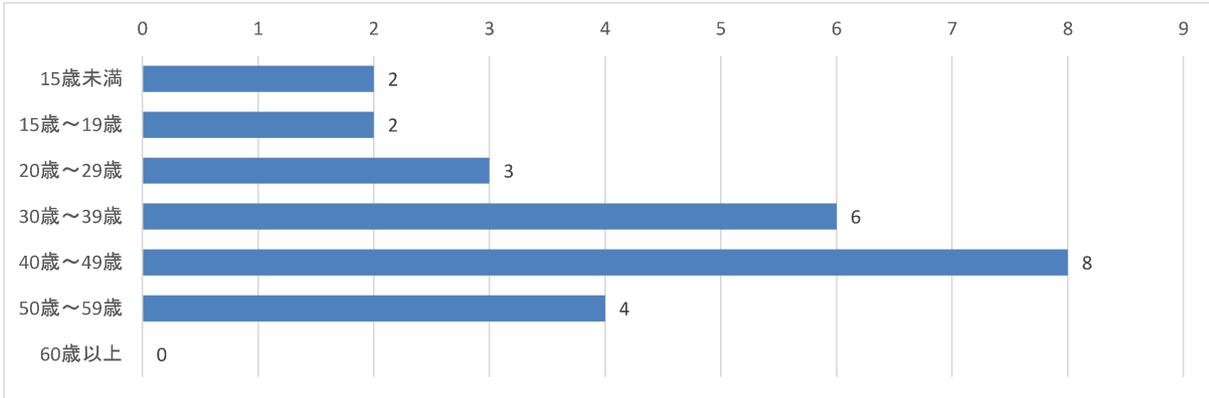
【問3】 ご本人の性別を選択して下さい。



当事者男女比は、有効回答のうち約7割が男性で、約3割が女性という結果になった。

【問4】 令和7年9月1日現在のご本人の年齢を選択して下さい。

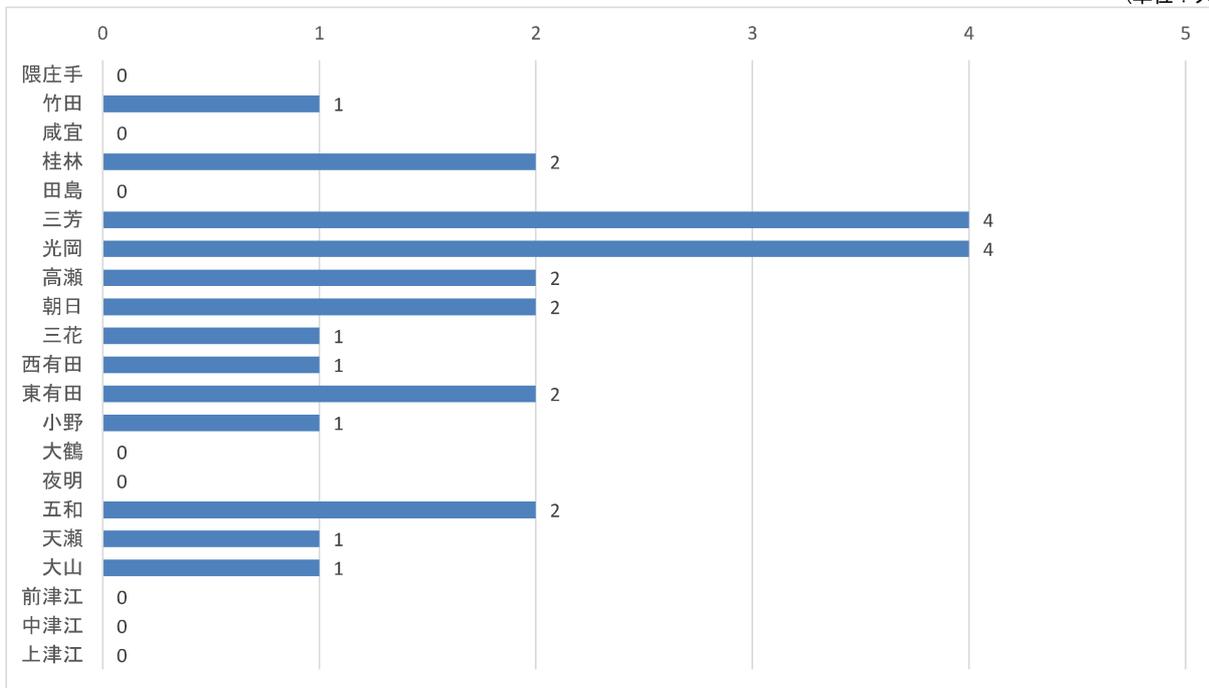
(単位：人)



「40歳～49歳」が8人と最も多く、次いで「30歳～39歳」が6人、「50歳～59歳」が4人となり、30代以上の割合が72%となった。

【問5】 ご本人は次のどの地区にお住まいですか。

(単位：人)

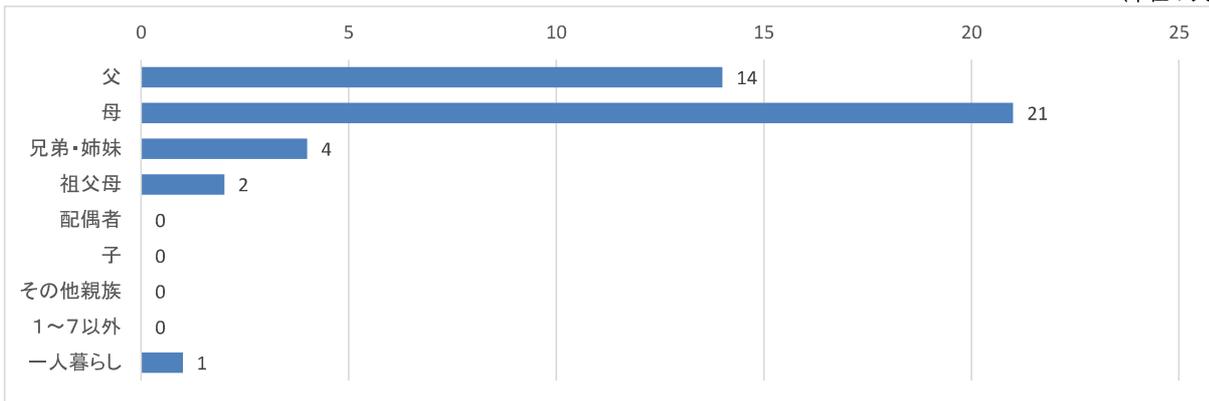


※その他(日田市外在住)1人

最も当事者が多い地区は「三芳」「光岡」の4人であり、次いで「桂林」「高瀬」「朝日」「東有田」「五和」が2人、「竹田」「三花」「西有田」「小野」「天瀬」「大山」「市外在住」が1人という結果となった。但し、本調査では、家族会・ひた生活支援相談センターを中心に調査票を配付していることから、該当地区以外にも当事者がいる可能性がある点に留意が必要である。

【問6】 現在、ご本人と同居している方を選択して下さい。（複数選択可）

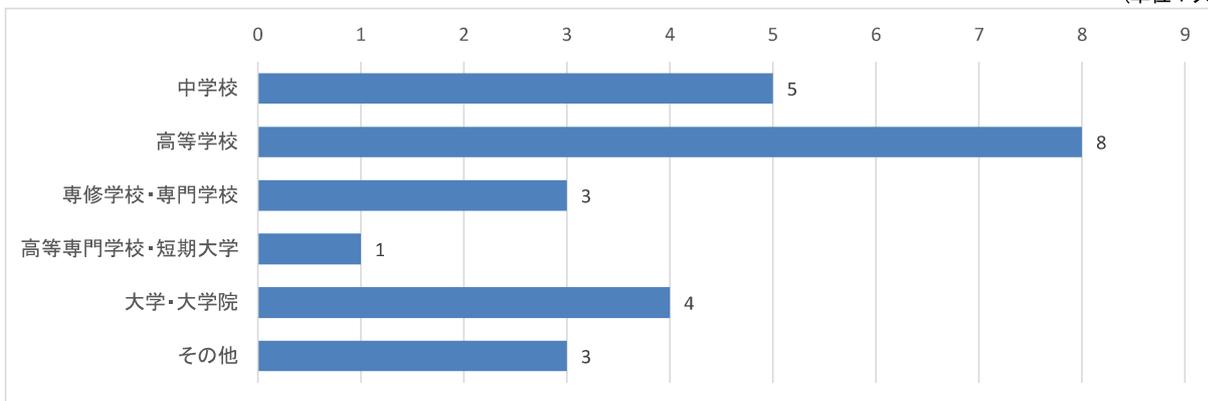
(単位：人)



父母との同居と回答した方が最も多く、有効回答数の約8割の結果となった。また、同居をしておらず、「一人暮らし」の方も1人該当があるなど、当事者によって状況は様々であった。

【問7】 ご本人が最後に卒業（中退を含む）した学校を選択して下さい。在学中の方は、現在在学している学校を選択して下さい。

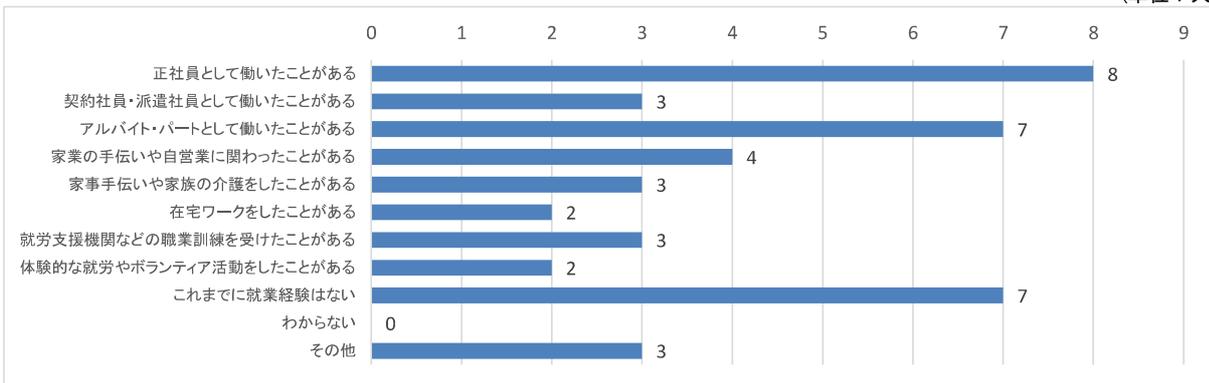
(単位：人)



「高等学校」が最も多く8人、次いで「中学校」が5人、「大学・大学院」が4人であった。

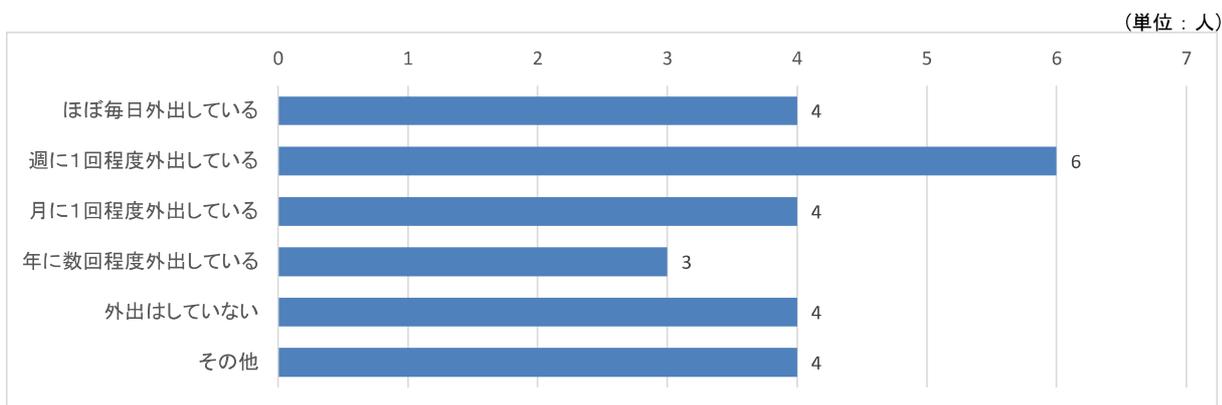
【問8】 ご本人の就業経験についてお答え下さい。（在宅ワーク・パート・アルバイトを含む）（複数選択可）

(単位：人)



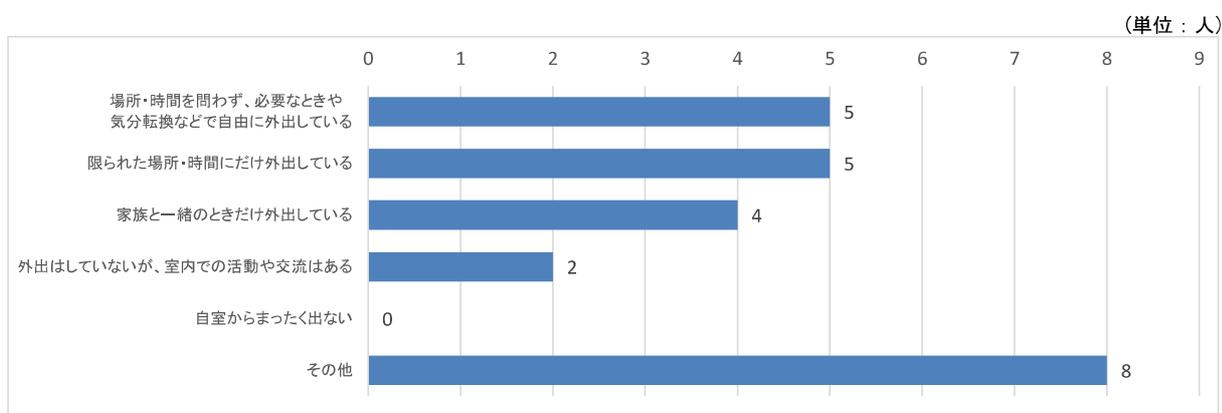
「正社員として働いたことがある」が最も多く8人、次いで「アルバイト・パートとして働いたことがある」「これまでに就業経験はない」が7人となった。有効回答数のうち、「その他」を除くと約76%が就業又は家業手伝い等をしたことがあるとの回答となっている。

【問9】 ご本人の現在の外出状況(頻度・状況)について、最も近いものを選択して下さい。〔頻度〕



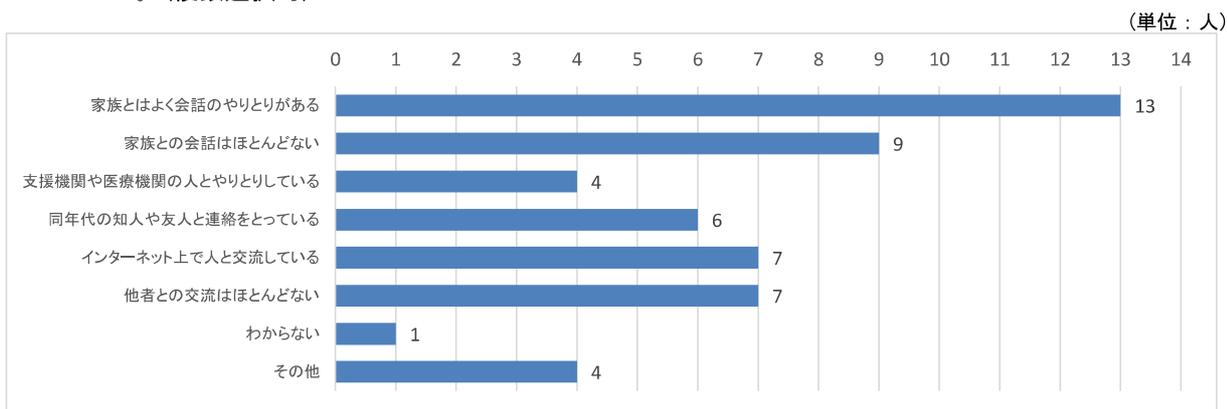
「週に1回程度外出している」が最も多い6人となったが、それ以外は大きな差が無いことから、外出頻度は当事者によって様々であることが分かった。

【問9】 ご本人の現在の外出状況(頻度・状況)について、最も近いものを選択して下さい。〔状況〕



「その他」が8人と最も多く、内容も当事者によって異なることから、当事者の外出状況についても個人により様々であることが分かった。

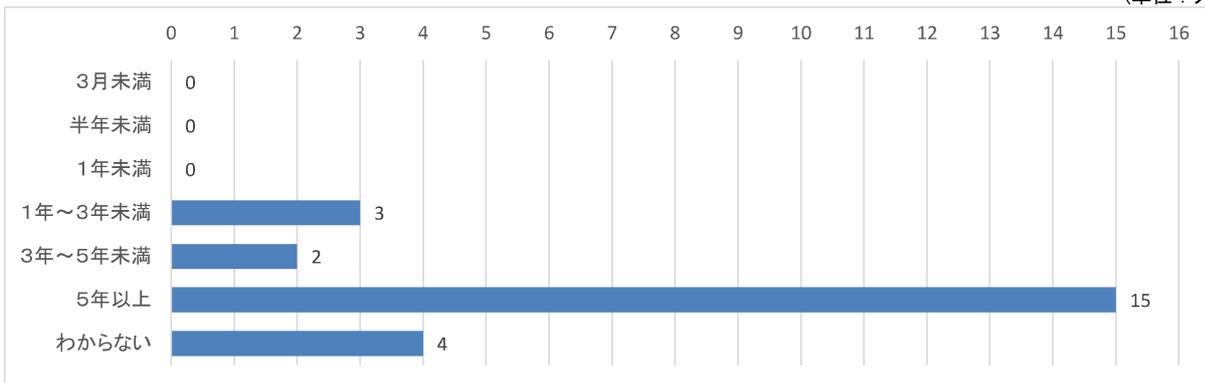
【問10】 外出状況に関わらず、現在のご本人の対人交流の状況について、あてはまるものを全て選択して下さい。(複数選択可)



「家族とはよく会話のやりとりがある」が13人と最も多い一方で、「家族との会話はほとんどない」が次に多い9人となった。また、他者との交流状況について、「インターネット上で人と交流している」が7人と多い反面、「他者との交流はほとんどない」が同数の7人という結果になった。交流状況についても当事者によって多様であり、それぞれの状況に応じた支援ニーズがあると考えられる。

【問11】 上記のような交流状況がどのくらい続いていますか。

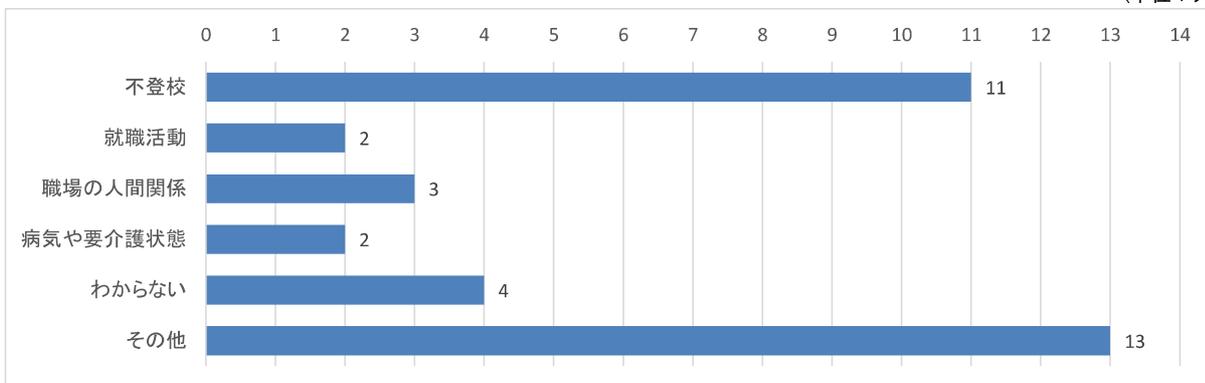
(単位：人)



「5年以上」が最も多く15人であり、長期間にわたりひきこもり状態が継続していることが分かった。また、最低でも1年以上、ひきこもりの状態が続いているという回答結果となった。

【問12】 あなたが、ご本人が現在の状況となったきっかけとして思うものを全て選択して下さい。(複数選択可)

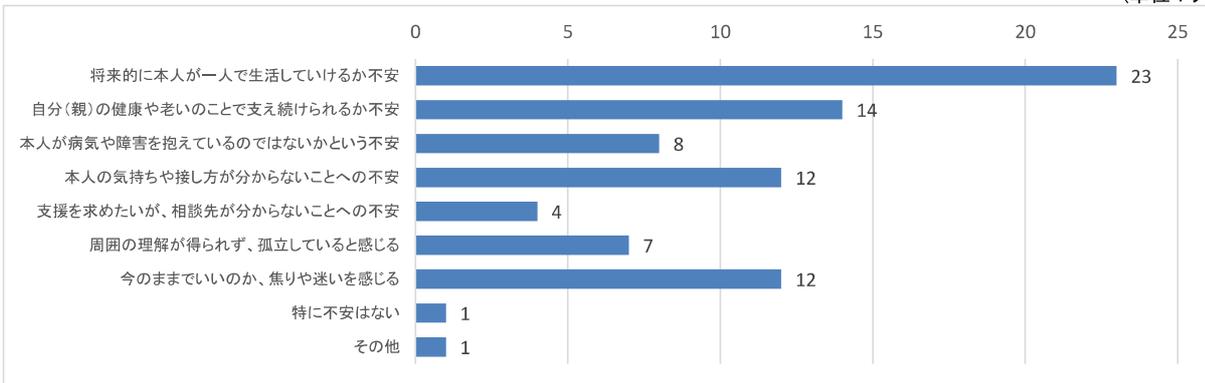
(単位：人)



「その他」が最も多い13人であり、きっかけは当事者個人の状況により様々であることが分かった一方で、「不登校」が次に多い11人という結果となった。本設問は、当事者家族が考えるきっかけを問うものであり、当事者が考えるきっかけとは異なる可能性がある点にも留意が必要である。

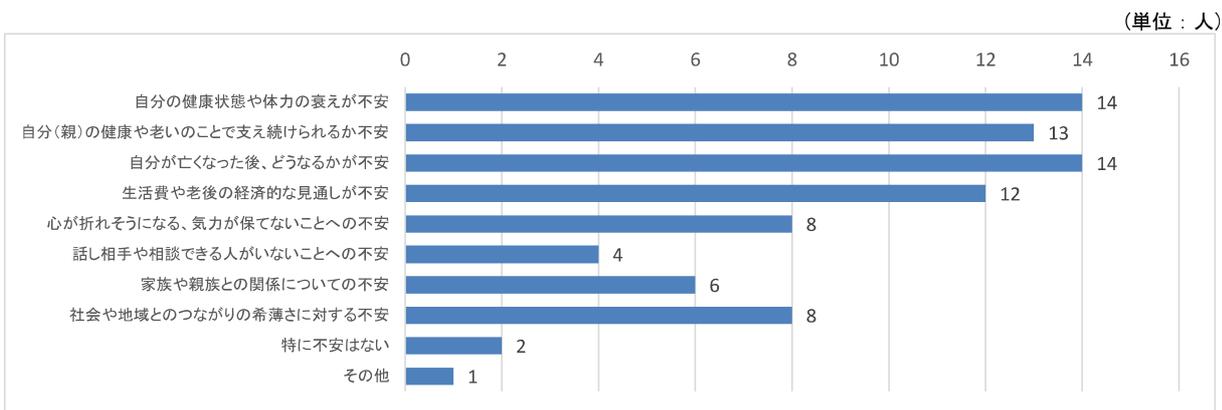
【問13】 ご本人のことについて、あなたが日ごろ感じている不安があれば、あてはまるものを全て選択して下さい。(複数選択可)

(単位：人)



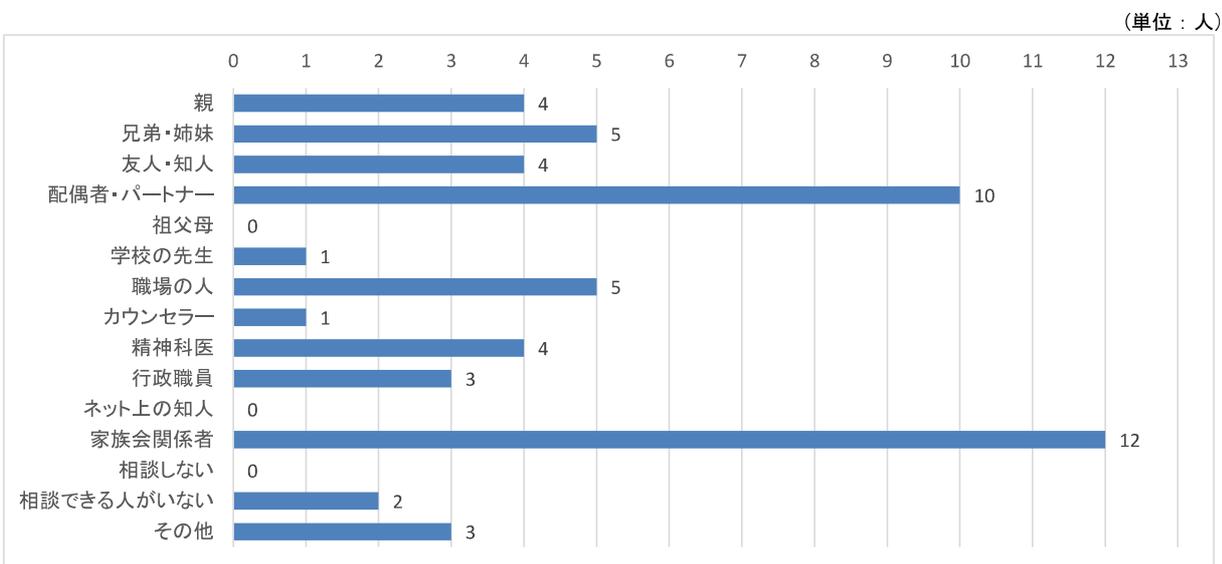
「将来的に本人が一人で生活していけるか不安」が最も多い23人であった。次いで「自分(親)の健康や老いのことで支え続けられるか不安」が14人、「本人の気持ちや接し方が分からないことへの不安」「今のままでいいのか、焦りや迷いを感じる」が12人となった。

【問14】 あなたご自身のことについて、日ごろ感じている不安があれば、あてはまるものを全て選択して下さい。（複数選択可）



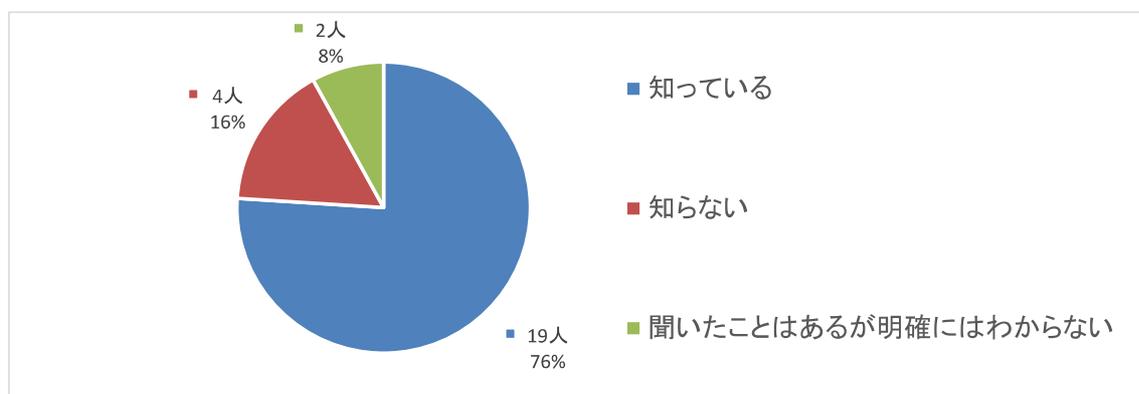
「自分の健康状態や体力の衰えが不安」「自分が亡くなった後、どうなるかが不安」が最も多い14人となった。また、【問13】と共通して「自分(親)の健康や老いのことで支え続けられるか不安」が次に多い13人となった。

【問15】 あなたが当事者の方の日常生活における心配事や悩みごとを相談する人を全て選択して下さい。（複数選択可）



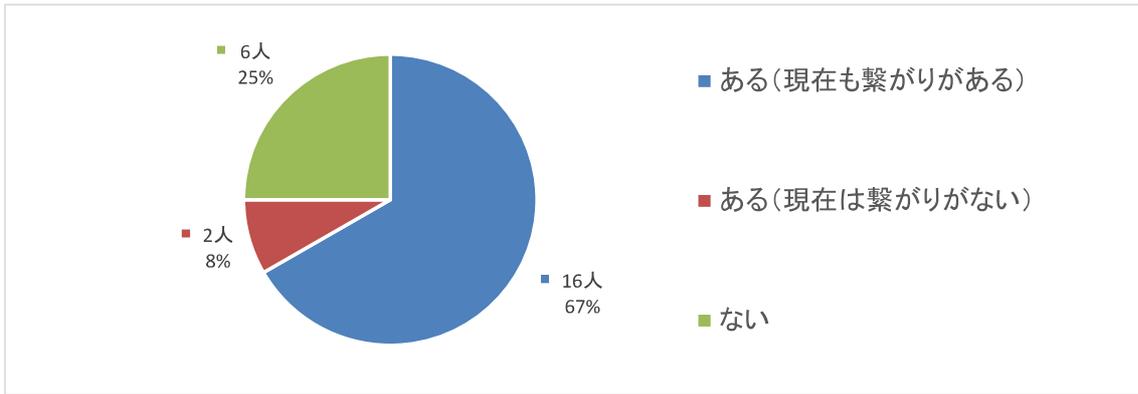
「家族会関係者」が最も多い12人であり、家族会が当事者家族にとって安心して相談できる場所となっていることが分かった。また「配偶者・パートナー」が次に多い10人という結果となった。

【問16】 あなたは、生きづらさを抱え生活上の困難を感じている状態にあるご本人やご家族が相談できる支援機関があることを知っていますか。あてはまるものを選択して下さい。



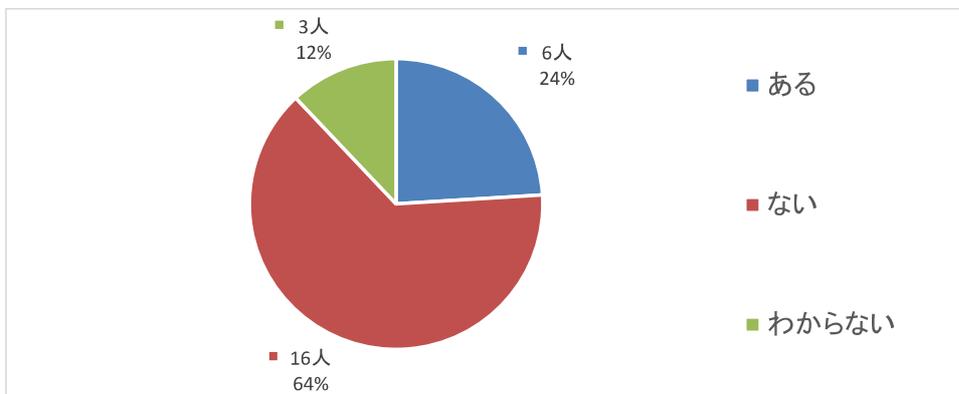
支援機関について、76%が「知っている」という回答となった。

【問17】 あなたは、支援機関に相談したことがありますか。相談したことがある場合、その機関とは現在も繋がりがありますか。あてはまるものを選択して下さい。



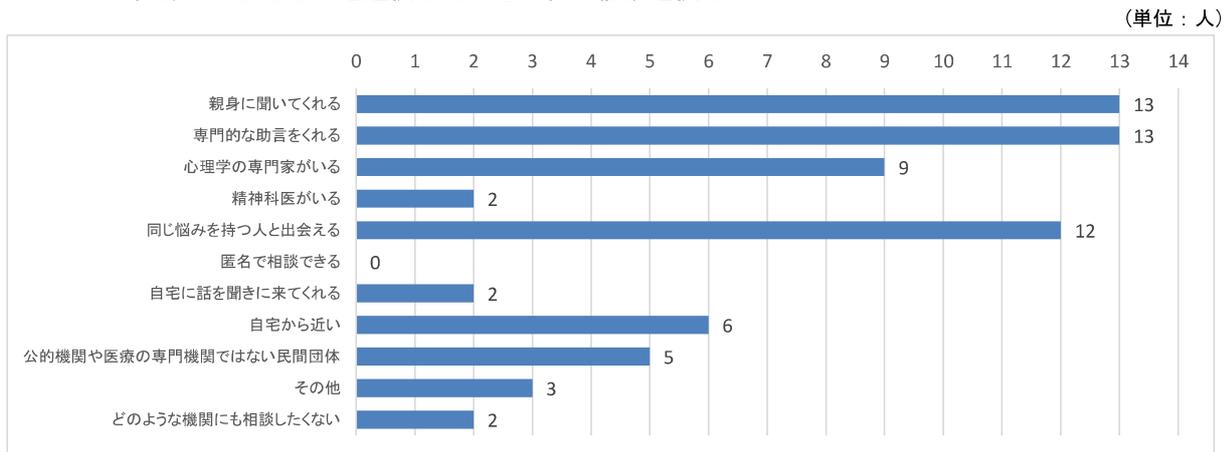
有効回答の75%が支援機関に相談したことがあると回答している。

【問18】 あなたは、支援機関や専門家と関わることについて抵抗感や不安はありますか。あてはまるものを選択して下さい。



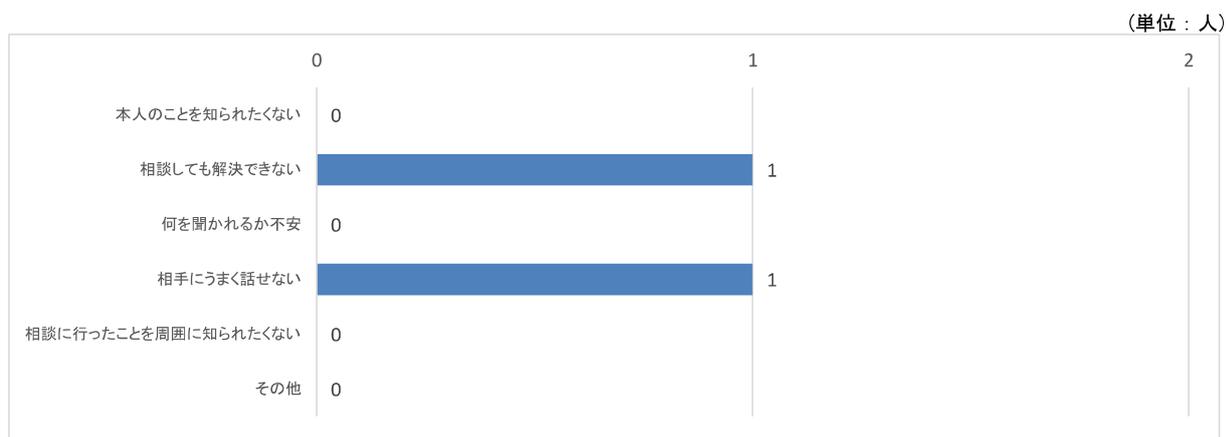
有効回答の64%が抵抗感や不安を感じていないが、一方で24%は抵抗感や不安を感じている状況にあることが分かった。

【問19】 あなたが行政や民間の支援機関に相談するとすれば、どのような機関であれば相談したいと思いますか。あてはまるものを選択して下さい。(複数選択可)



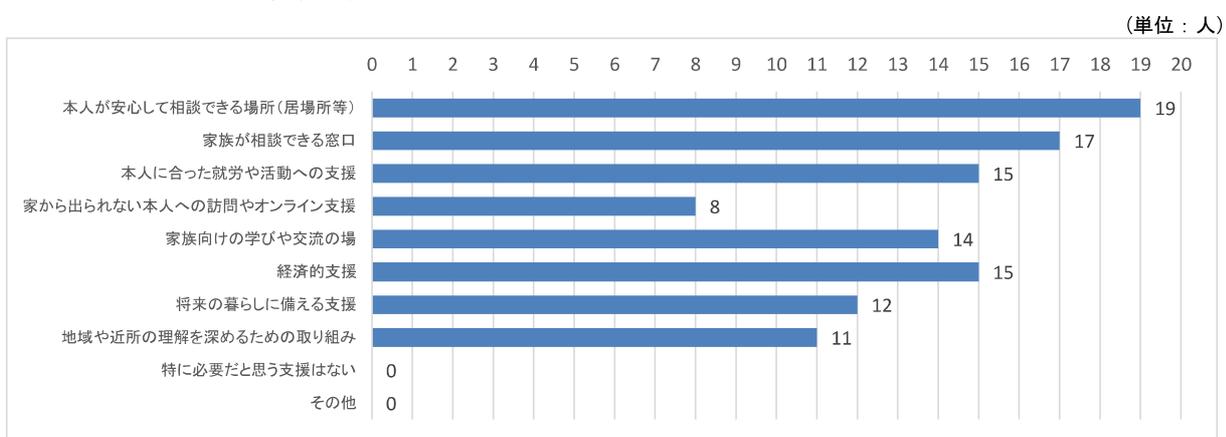
「親身に聞いてくれる」「専門的な助言をくれる」が最も多い13人となった。次いで「同じ悩みを持つ人と出会う」が12人となった。また、専門的な助言に関連して「心理学の専門家がいる」が9人という結果となった。

【問20】 【問19】で「11. どのような機関にも相談したくない」を選択した方にお尋ねします。相談したくないと思う理由を選択して下さい。（複数選択可）



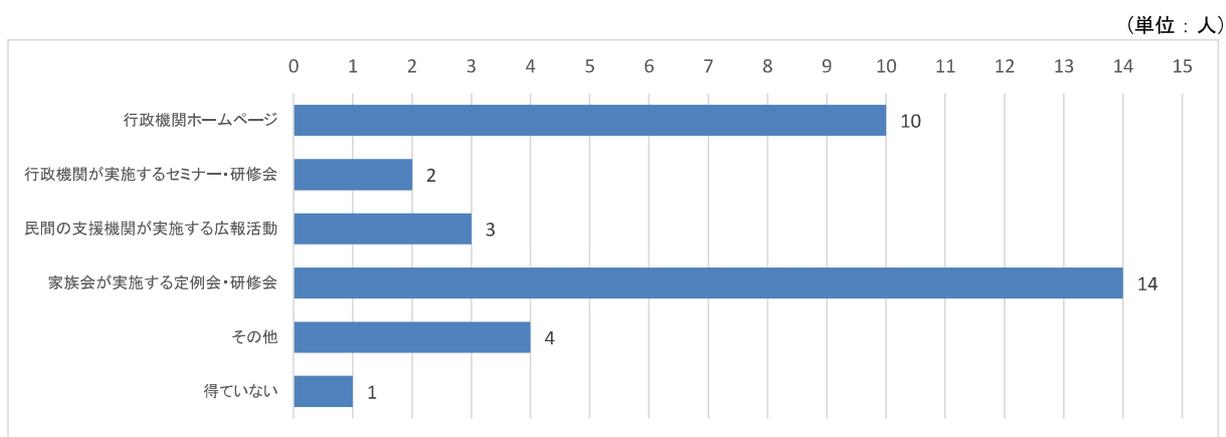
「相談しても解決できない」「相手にうまく話せない」がそれぞれ1人という結果となった。

【問21】 行政や民間の支援機関からの支援について、ご本人やご家族にとって“必要だと思うもの”を選択して下さい。（複数選択可）



「本人が安心して相談できる場所(居場所等)」のニーズが19人と最も多い結果となった。次いで「家族が相談できる窓口」が17人、「家族向けの学びや交流の場」が14人となるなど、家族支援に関するニーズも高いことが分かった。また、当事者については「本人に合った就労や活動への支援」が15人であり、家庭全体に関するものとして「経済的支援」が15人という結果となった。

【問22】 あなたは、支援の情報や、対応に関する知識をどこから得ていますか。あてはまるものを選択して下さい。（複数選択可）



「家族会が実施する定例会・研修会」が最も多く14人であり、次いで「行政機関ホームページ」が多く、10人という結果となった。一方で、「得ていない」の回答が1人と、情報を得ることが出来ていない方もいることから、情報発出の方法についても工夫が必要であると考えます。

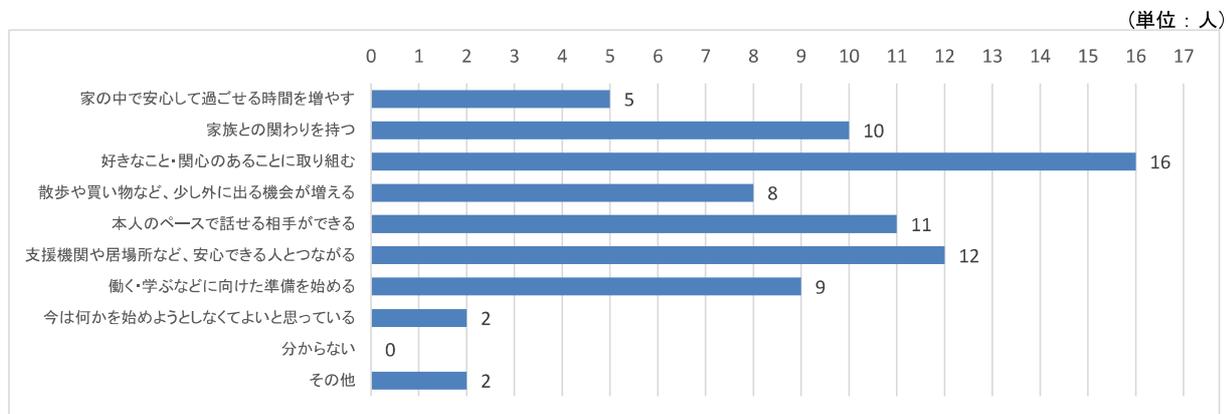
【問23】 あなたは、生きづらさを抱え生活上の困難を感じている状態にある方に対する地域の理解について、どう感じていますか。ご記入下さい。（自由記載）

自由記載（調査票B）参照

【問24】 あなたは、ご本人やご家族として、今後どうなっていけたらいいと思いますか。ご記入下さい。（自由記載）

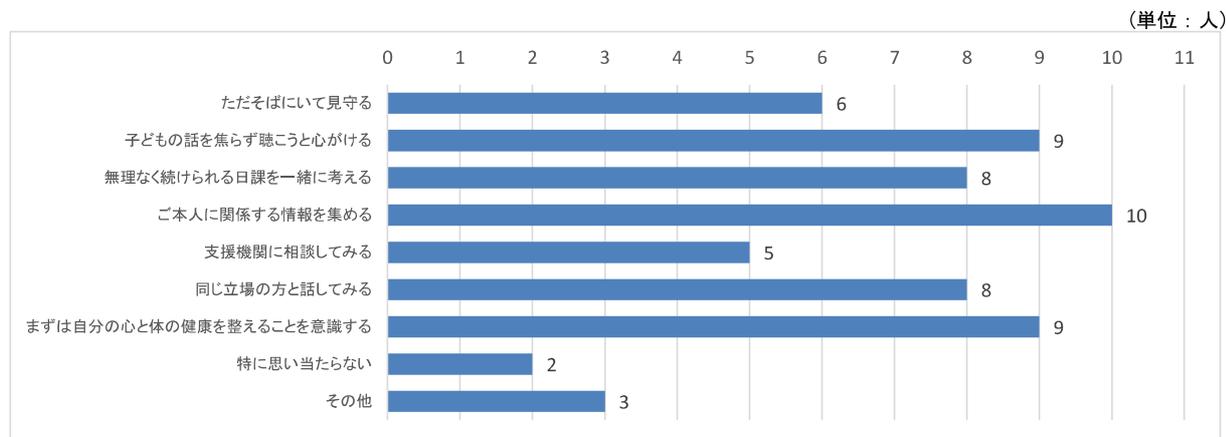
自由記載（調査票B）参照

【問25】 ご本人が今後“できたらいいな”とあなたが思うことを全て選択して下さい。（複数選択可）



「好きなこと・関心のあることに取り組む」が16人と最も多く、次いで「支援機関や居場所など、安心できる人とつながる」が12人、「本人のペースで話せる相手ができる」が11人、「家族との関わりを持つ」が10人となった。

【問26】 上記のために、あなたが“できそう”・“やってもいい”と思うことがあれば全て選択して下さい。（複数選択可）



「ご本人に関係する情報を集める」が10人と最も多く、次いで「子どもの話を焦らず聴こうと心がける」「まずは自分の心と体の健康を整えることを意識する」が9人、「無理なく続けられる日課と一緒に考える」「同じ立場の方と話してみる」が8人という結果となった。

【問27】 生きづらさを抱え、社会生活や日常生活を円滑に送ることができない方への支援のあり方について、ご意見等ございましたら、ご記入下さい。（自由記載）

自由記載（調査票B）参照

自由記載（調査票B）

【問7】ご本人が最後に卒業（中退を含む）した学校を選択して下さい。在学中の方は、現在在学している学校を選択して下さい。

その他

●	大学中退
●	中卒ですが、一日も学校に行けていません。

【問8】ご本人の就業経験についてお答え下さい。（在宅ワーク・パート・アルバイトを含む）（複数選択可）

その他

●	面接までは行ったけれど、相手側から今までの生活などについて説教（ハラスメント的）を言われ動けなくなった。
●	内職
●	高校生であり長期休暇中に数日アルバイトに行きました。

【問9】ご本人の現在の外出状況（頻度・状況）について、最も近いものを選択して下さい。〔頻度〕

その他

●	調子が良い時は週4位、悪い時は一日家に居る。
●	週3回
●	3~4日/週、在学中であり休みや早退を調節している。 土・日など休みでも自分に絶対必要な用事でないと外出しない。

【問9】ご本人の現在の外出状況（頻度・状況）について、最も近いものを選択して下さい。〔状況〕

その他

●	2~3ヶ月に1度位、（髪の）セットに行ってる。
●	自室からまったく出ず、食事・トイレは行動、入浴していない、たまにシャワーする。
●	病院の時。
●	自分が必要と思う事だけ外出する。予定外に外出しない。

【問10】外出状況に関わらず、現在のご本人の対人交流の状況について、あてはまるものを全て選択して下さい。（複数選択可）

その他

●	地域の関係ある事（人）とは交流がある。
●	隣保班の人とは必要に応じて話す。近所の特定の一人の人と交流がある。
●	あまり本人からいろいろ話しかけたりはないが、こちらからのやりとりで答えたり、なにげない話をする。時々、マッサージをしてリラックスの時間をつくっている。
●	学校に友人はいる。

【問12】あなたが、ご本人が現在の状況となったきっかけとして思うものを全て選択して下さい。（複数選択可）

その他

●	大学中退時。
●	転居して人の関わりがなくなってから。
●	最後の職場でボイスチックの病気が出だしたから。
●	学生（大学）の時の人間関係。
●	小学校の頃のいじめ。
●	母親の死と不毛症。
●	本人の発達特性、学校で「ちび」といわれた。
●	繊細な気質など。
●	自閉スペクトラム障害。
●	親の対応が適切でなかった。
●	不登校時の学校の先生との人間関係。
●	心の病気。
●	発達障害があると思っています。
●	中学校生活の環境の変化、友人関係の関わり方がにがて。

【問13】 ご本人のことについて、あなたが日ごろ感じている不安があれば、あてはまるものを全て選択して下さい。（複数選択可）

その他

- |                    |
|--------------------|
| ● 仕事に就くことができるのか不安。 |
|--------------------|

【問14】 あなたご自身のことについて、日ごろ感じている不安があれば、あてはまるものを全て選択して下さい。（複数選択可）

その他

- |  |
|--|
| ● 今は高校生だが今後仕事ができるのか、つづくのか、自立した生活が営めるようになるのか、姉に迷惑かけないかなど不安です。 |
|--|

【問15】 あなたが当事者の方の日常生活における心配事や悩みごとを相談する人を全て選択して下さい。（複数選択可）

その他

- |                |
|----------------|
| ● 相談支援員        |
| ● 長男           |
| ● ひた生活支援相談センター |
| ● 南部包括支援センター   |

【問16】 あなたは、生きづらさを抱え生活上の困難を感じている状態にあるご本人やご家族が相談できる支援機関があることを知っていますか。あてはまるものを選択して下さい。

「1. 知っている」を選択した方は、その機関名を以下にご記入下さい。（自由記載）

- |   |
|---|
| ● 生活困窮者相談窓口   |
| ● K H J 日田ゆきどけの会(家族会)                                   |
| ● ひた生活支援相談センター  |
| ● 相談支援事業所ポノ   |
| ● Sorae (那覇市)   |
| ● 日田市役所   |
| ● 家族会   |
| ● 日田市社会福祉協議会  |
| ● 生活上の困り事（制度・健康面）などについては…<br>ひた生活相談支援センター<br>市の福祉窓口や保健師 |
| ● 西部保健所<br>相談支援事業所<br>ひきセン<br>ころとからだの相談支援センター           |
| ● 南部包括支援センター  |

【問17】 あなたは、支援機関に相談したことがありますか。相談したことがある場合、その機関とは現在も繋がりがありますか。あてはまるものを選択して下さい。

「ある（現在も繋がりがあある）」 「ある（現在は繋がりがあない）」 を選択した方は、その機関名を以下にご記入下さい。（自由記載）

- |   |
|---|
| ● 市 保健師への相談   |
| ● K H J 日田ゆきどけの会(家族会)                                 |
| ● 相談支援事業所ポノ   |
| ● Sorae (那覇市)   |
| ● 教育センター  |
| ● 日田市役所   |
| ● 日田市社会福祉協議会  |
| ● 西部保健所<br>ひた生活支援相談センター<br>福岡の精神科クリニック（閉院）<br>相談支援事業所 |
| ● 南部包括支援センター  |

【問18】 あなたは、支援機関や専門家と関わることについて抵抗感や不安はありますか。あてはまるものを選択して下さい。

ある(理由を具体的に)

- |  |
|--|
| ● 質問に対して、具体的に答えてくれるかどうか。   |
| ● 薬の投与   |
| ● 詳しいことを根ほり葉ほりきかれたあげく、ほぼ助けてくれないこと。<br>助けてくれるところに相談したい。<br>助けるすべがないなら、きかないでほしい。話をするのもつらいので。       |
| ● 本人の気持ちや状況をきちんと理解してもらえるか不安。<br>話を聞いてもらうだけで終わってしまうのではないかと半分あきらめの気持ち。<br>ひきこもり支援のエキスパートだったら関わりたい。 |

● 何も変わらない。

【問19】あなたが行政や民間の支援機関に相談するとすれば、どのような機関であれば相談したいと思いますか。あてはまるものを選択して下さい。（複数選択可）

その他

● 家族会  
● 発達障害の特性をもった人でも本人のペースに合わせて働ける場所を教えてくれる機関。

【問21】行政や民間の支援機関からの支援について、ご本人やご家族にとって“必要だと思うもの”を選択して下さい。（複数選択可）

上記の支援策が必要だと思われた理由をご記入下さい。

● メンタルに通っている為、働きたくても交通手段もなく何の資格もない事。  
20年も色々さがして見たが、どこも働き場所もなく失望している。  
アンケートだけで何年先になるか年も取ってますます働く場所がないのではと不安です。  
● 親亡き後、本人一人で社会生活を送れるか不安であるから。  
● ゆきどけのような家族会はとてもよいと思って参加させてもらっている。  
● このままの状態ではいけないと思うから。親亡き後、どう生活していくのが心配だから。  
● 対策、支援の方法が多く必要と考えるため。  
● 本人が幸せに生きるため。  
● 今実際に困っているから。相談にいても、話して疲れるだけで何も解決しないから。  
その専門分野やその活動に携わる方に話す、相談するコトで気付いて前に進めることができる。  
● 学んだり、交流すること、将来の暮らしに備える支援も不安を軽減する1つの助けの場となると思ったので。  
● 家族として…何らかの制度を利用する目的があって相談に行く場所はいろいろあると思いますが、対人の困り事など制度利用を目的としない生きづらさに伴走して相談を受け付けてくれる場所がなかなかないように感じます。  
● 専門家でなければわからない事は多いです。こまり事に対して、小さなサービスや制度がつかえれば活用したいと思っています。

【問22】あなたは、支援の情報や、対応に関する知識をどこから得ていますか。あてはまるものを選択して下さい。（複数選択可）

その他

● 心理学系の研修会など。  
● 心療内科の医師から。  
● SNS・KHJの機関誌・新聞・ひきこもり支援をしている方の著書  
● インターネット

【問23】あなたは、生きづらさを抱え生活上の困難を感じている状態にある方に対する地域の理解について、どう感じていますか。ご記入下さい。（自由記載）

● あまり関心がないと思う。又、関わりたくない（心配はしても）どう対処したら（対応）いいかわからないので、積極的にはかかわらない。  
● 親が元気で健在なうちは、本人の事や将来を考えて何らかの手を打ったり、準備をした方がよいと思う。親に力がなく、理解がない場合は、本人が生きてきた地域や近所、町内で見守りいよいよ限界がきたら、市役所や社協などの専門家チームで対策を考えてほしい。  
地域の理解は近所つき合いや町内がまとまっている場合はある程度進むが、それがなかったら難しい。  
● ふつうだと思う。今はいろいろな生きづらさをもった方がいる。その中のひとつだと考えると…。  
● 私の気持ちは、地域でどこの家に居るのかを行政で、把握して知っておいてほしい。  
● 地域の人たちは、遠慮して、何も聞かない。  
● 子供と、いっしょに住んでいるということ自体、半分ぐらいの人は、知らないと思う。  
● 相手の状況を知りもしないのに、おせっかいにアドバイスをしたりしてかえって本人が傷ついて外へ出なくなった。自分のものさしにあてはまらないからといって他人を矯正しようとしなくてほしい。  
何か事情があるかもしれないと広い心で接してほしい。  
● なまげやわがまま、親のしつけが悪い、失礼な人、怖い人と思われると思います。  
● 長い間共働きだったこともあり、近所の方と会う機会も少なく、私自身もし近所に困っている方がいたとしてもよく知らない状況なので、お互いに理解しようとする機会もなくどうしたらよいかと悩んでいます。  
● 地域の方にどうかとは思いません、本人が社会や家以外の場所に向いたところで本人をうけいれる。その人の特性に合わせて、活動できる場をつくってくれる世の中であって、理解してくれる人達がいるといいと思います。

【問24】あなたは、ご本人やご家族として、今後どうなっていけたらいいと思いますか。ご記入下さい。（自由記載）

● 本人の意思を尊重しながら、少しでも本来の自由さをとりもどしてほしい。  
● 親が亡くなるまでに。自分の必要とする助けを求めること、自分でなんとか暮らしていけるように導けたらいいと思う。  
● 働く場所。同じ病気を抱えている人の理解。笑って楽しくすごせる居場所作りを願っています。

●	本人の努力で、生活していける力をつけて、収入を得ていく。
●	親が残せるものがあれば残して、親亡き後の生活支援ができるように考える。
●	本人がメンタルクリニックを受診してくれるといいと思っている。むつかしいことです。
●	親亡き後、ホームヘルパーのような人が、10日が1ヶ月に1回でも訪問して、相談にのってくれたら、心の安心感が、得られると思う。自分から相談には行けない。
●	本人が自立して生活を行える環境が作れば助かります。
●	しあわせになりたい。
●	安心できる暮らし。
●	とにかくお金がない。これから先の生活が心配。
●	本人が外へでられるようになって学費が払えない可能性が高い。
●	本人と私達家族で、買物・食事など出かけること。
●	やりたいことが自然にできること。
●	自分自身は、気持ちのゆとりをもって子と接していきたいと思います。
●	親の希望ですが、本人が家族以外でうちとける人ができたらうれしい。
●	コミュニケーションがとれること。
●	このまま、仕事を続けてくれたら安心。
●	お金に困らない暮らし。
●	本人が自分の性格や自分がきつときの対処法、ストレス発散方法など自分の事を知って、上手に対応できるかを少しずつできるようにしてほしいと思います。

【問25】ご本人が今後“できたらいいな”とあなたが思うことを全て選択して下さい。（複数選択可）

その他

●	ゆったりと対話ができる。
●	ひとりでの外出を再開できる。

【問26】上記のために、あなたが“できそう”・“やってもいい”と思うことがあれば全て選択して下さい。（複数選択可）

その他

●	離れて暮らしている。
●	自立へのサポート、本人がやれそうなことを手伝って実現していく。

【問27】生きづらさを抱え、社会生活や日常生活を円滑に送ることができない方への支援のあり方について、ご意見等ございましたら、ご記入下さい。（自由記載）

●	一人ひとり、背景も、性格も、思いも違います。通り一偏の支援ではなく、各人の状況を知り、それに応じた支援を根気よく長期にわたって、できれば同じ方が（2人くらいでも）支援して欲しい。
●	アンケートだけでなく皆の意見に沿って早急に対処して欲しい。お願いします。
●	本人や本人の親・身近な人に日田市の生活支援センターに相談に行くように進める。生活支援センターが、いろいろな人の支援や相談を受け入れ、伴走型支援ができるように専門性を高め、人の体制を整えてほしい。
●	十分に行政の方はやっていると思います。それにこたえる事がなかなかできない。不可能なのです。心をやむということは本人が一番くるしいと思います。
●	本人が、人間が嫌いだと言い、人に会う事、家に人が来ることを嫌がるので、支援をしてもらおうにしても、どうしてもらおうのが良いかわからない。医療機関にも行けない。
●	お茶とお菓子、一杯100円～200円ぐらいはらって、いける喫茶店のような居場所があるといいな。毎月第三土曜の1時～5時まで営業。お年よりから子供までだれでも気軽に、あつまる場所があったら…孤独からすくわれる場所。
●	タライ回しにしない。ワンストップの支援。
●	サポートできる人を増やしてほしい。
●	行政機関などに相談に行く人の気持ちへの配慮がほしい。話すだけでもつらい、体力のいることをしてまで助けを求めているのに、職員が酷な事を言ったり、あまりに事務的で知識もなかったり、落胆することが多かった。相談にいった人の気持ちに配慮した対応をしてほしい。助けてほしくて相談にいったのが怖くて相談に行けなくなる。
●	本人が支援を求めている。
●	それぞれが、自分とは違った個性・悩みをもち、懸命に生きていることを想像して、自然な手助け、優しい声かけができれば、その本人もまわりも心が軽くなり、生きやすくなるのではと思います。よろしくをお願いします。
●	義務教育にたずさわる先生方に発達障害等の知識や経験を重視してほしい。一緒に学ぶ子たちにも知識としてしっかり与えてほしい。地域の人や親にも学ぶ機会が必要。
●	制度利用などを念頭においた支援ではなく、生きづらさの悩みについて伴走してくれる機関の存在。
●	通える場所。
●	普通の生活がしたい。

※自由記載は、集約した調査票より一部抜粋したもの。  
 ※誤字・脱字の訂正および重複項目の統合等を除き、原文のまま掲載。